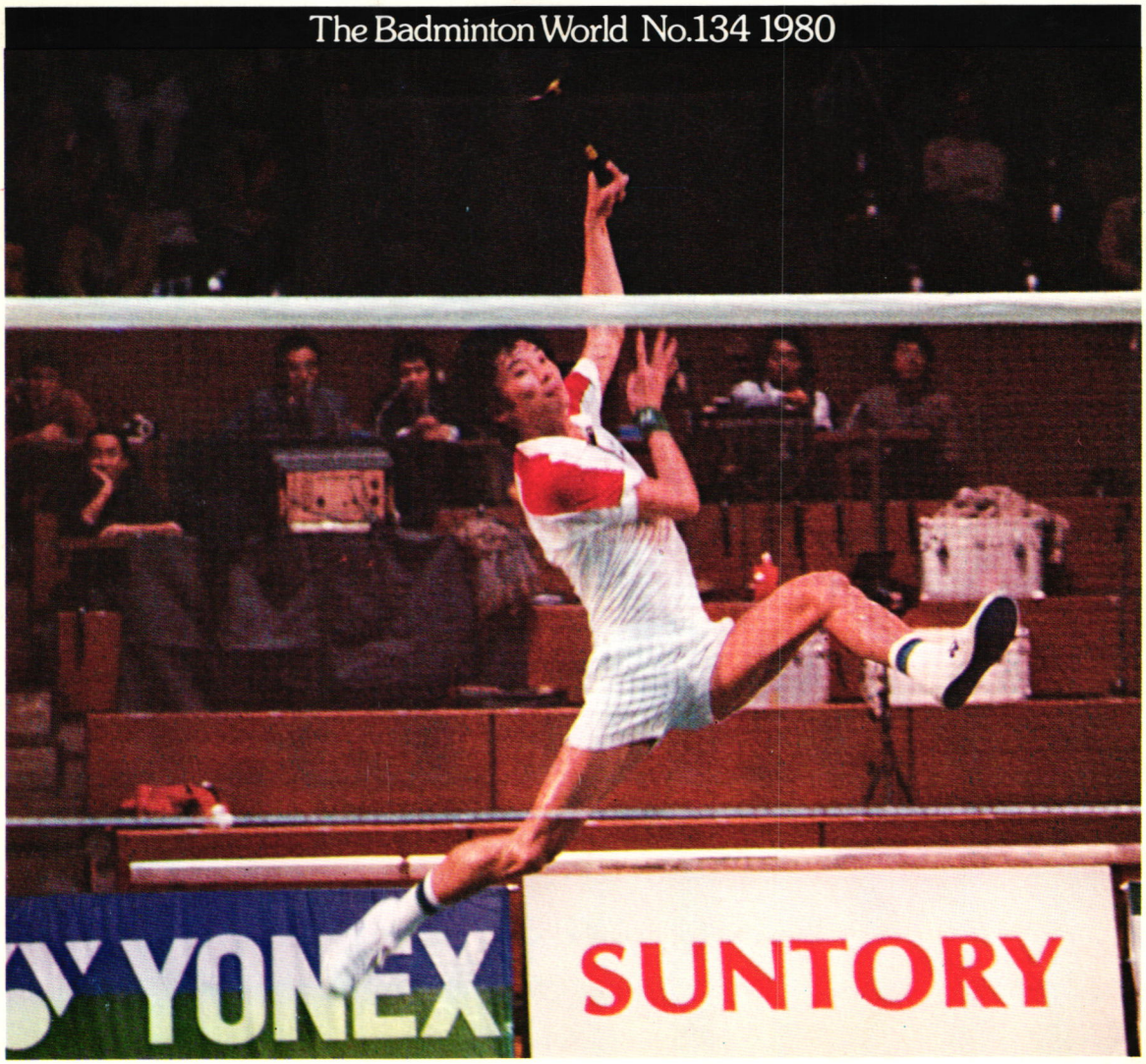
昭和55年12月15日発行（毎月1回15日発行 通巻134号） 昭和55年10月9日第三種郵便物認可

バドミントン界

12

The Badminton World No.134 1980





carlton
That's the name of the game

ニュー・フェザー・シャトルコック
carlton SUPER

衝撃のシャトル!
今,カールトンから。

常に世界のバドミントンをリードする英国カールトン社が,またもや画期的な発明をやり遂げました。ナイロン・シャトルコック一筋に半世紀,世界のナイロン・シャトル市場で90%以上のシェアを持つカールトンならではの新製品です。研究・開発に5年以上の歳月を費やし,数億円にのぼる開発費を投入して完成されたこの新製品は,従来の水鳥球とほぼ同じ型体と性能を有し,しかも耐久性は3倍～5倍という画期的な製品です。世界的に水鳥球の供給が,問題とされている今日,私達はこの新製品に絶大なる自信を持ち,〝ナイロン・シャトルコック〟と言わずあえて〝ニュー・フェザー・シャトルコック〟と呼びたいと思います。カールトンは常に一歩先を見つめ明日のバドミントンを考えます。ご期待ください。



1ダース¥6,000(1個¥500)

10月下旬発売

METRO 総輸入元 メトロレジャー株式会社 〒101 東京都千代田区外神田5-6-4 TEL.(03)833－3661(代)

ALL JAPAN BADMINTON CHAMPIONSHIPS '80



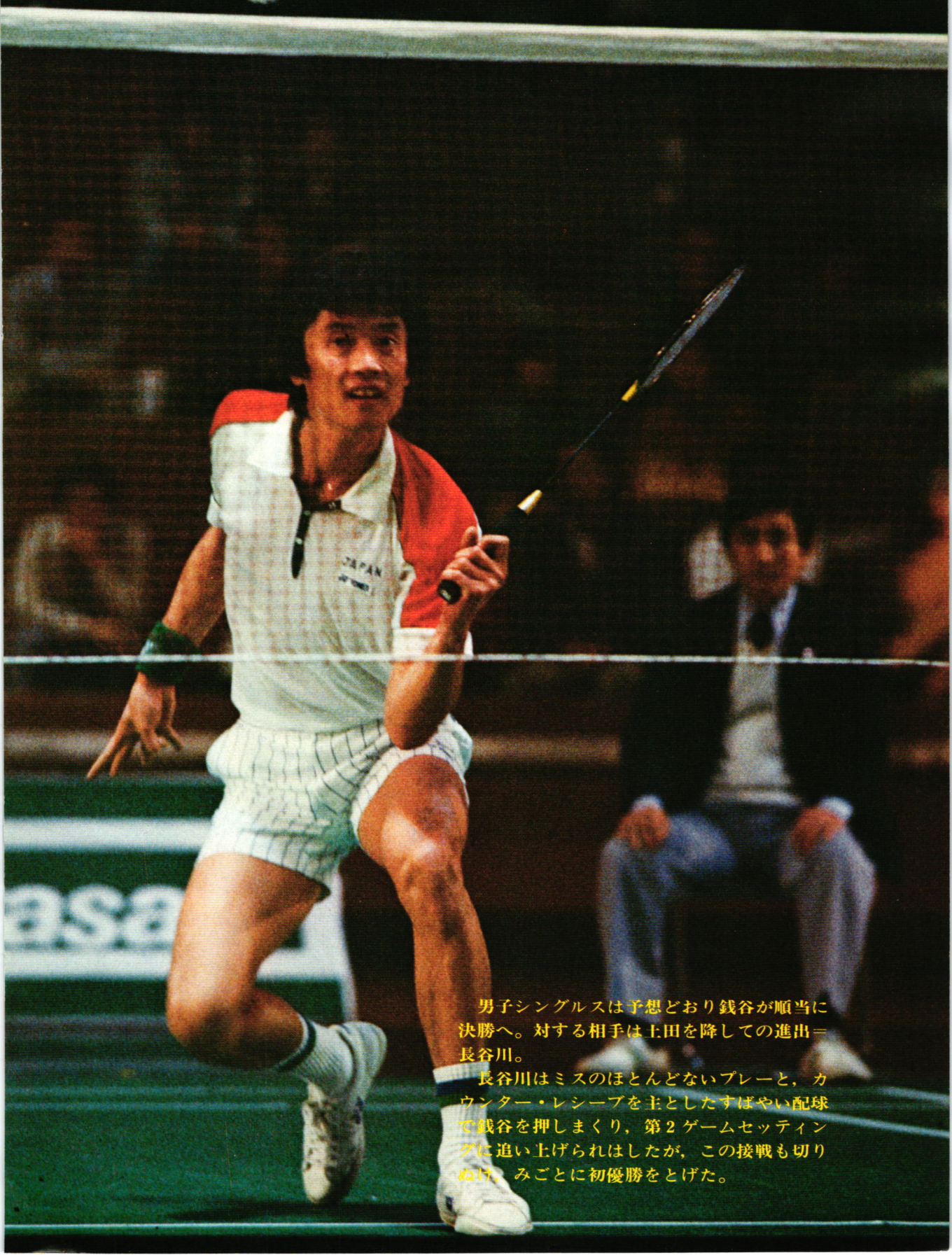


1980年の総決算であるオールジャパン'80は，11月20日から23日まで東京で開かれた。

銭谷が小島，湯木とならぶ5連勝をとげるか，実力伯仲の女子を制するのはだれか，あるいは新星・北田が大器ぶりを発揮するか。

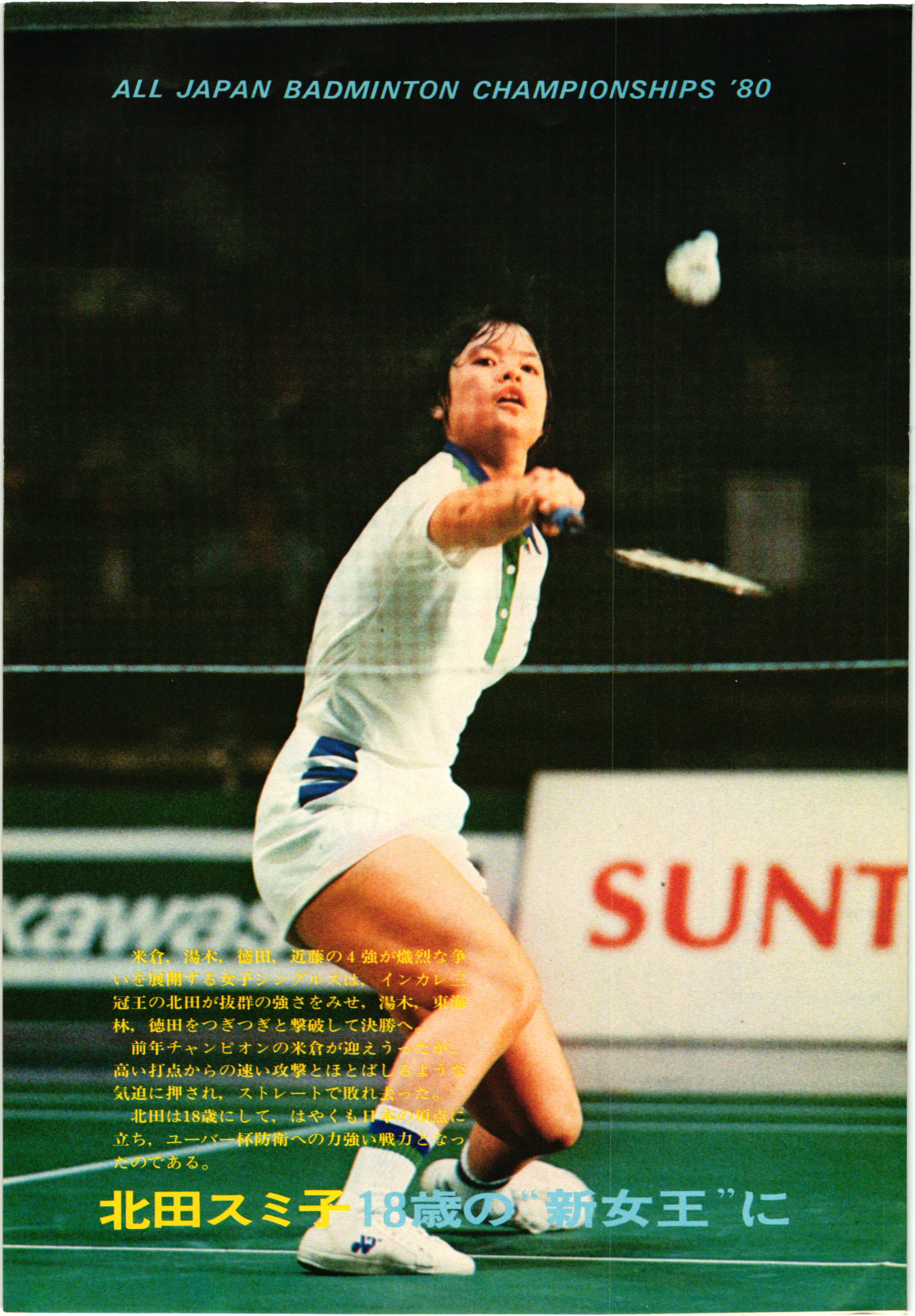
そして，ダブルスはどんなペアが栄光の座につくか……。

長谷川博幸銭谷V5をはばむ



男子シングルスは予想どおり銭谷が順当に決勝へ。対する相手は土田を降しての進出＝長谷川。

長谷川はミスのほとんどないプレーと，カウンター・レシーブを主としたすばやい配球で銭谷を押しまくり，第2ゲームセッティングに追い上げられはしたが，この接戦も切りぬけ，みごとに初優勝をとげた。

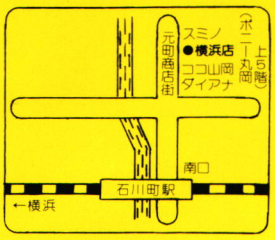


米倉，湯木，徳田，近藤の4強が熾烈な争いを展開する女子シングルスは，インカレ三冠王の北田が抜群の強さをみせ，湯木，東海林，徳田をつぎつぎと撃破して決勝へ。

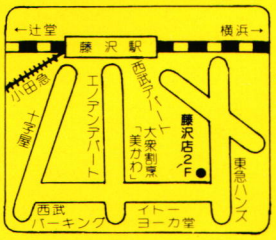
前年チャンピオンの米倉が迎えうったが，高い打点からの速い攻撃とほとばしるような気迫に押され，ストレートで敗れ去った。

北田は18歳にして，はやくも日本の頂点に立ち，ユーバー杯防衛への力強い戦力となったのである。

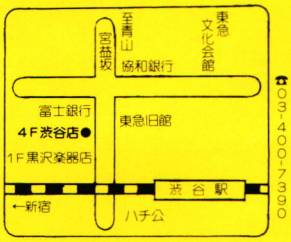
北田スミ子 18歳の"新女王"に



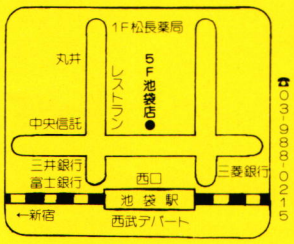
●横浜店
☎045-662-7193
5F テニス・フロア
☎045-651-2020
4F バドミントン・フロア
☎045-662-9857



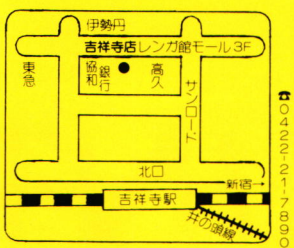
●藤沢店
☎0466-26-2552
テニス・バドミントン



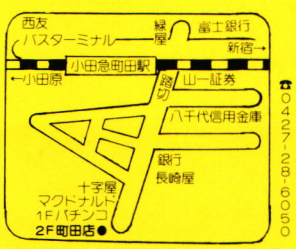
●渋谷店
☎03-400-7390
バドミントン・プロショップ



●池袋店
☎03-988-0215
バドミントン・プロショップ



●吉祥寺店
☎0422-21-7890
バドミントン・プロショップ



●町田店
☎0427-28-6060
バドミントン・プロショップ

ラケットショップ元町

恒例のフィーバーする31日間

Xマス・8周年・お正月

&・&バーゲン

'80.12.12㊎～'81.1.11㊐

お待ちしております

ラケットショップ元町®



®

バドミントン界 12

❶
カラーグラフ
ALL JAPAN '80から

❻
銭谷，長谷川に屈しＶ５ならず
北田は圧勝で新女王に

❽
飯野・土田２年ぶりに復活
米倉・徳田はラクラク２連覇

❿
連載／銭谷欽治
チャンピオンをめざせ

⓬
〝羽根打ちサービス〟是か非か！
このサービスは何を与える？

⓮
新連載／メディカル・アドバイス
スポーツ心臓

⓱
保存版記録
第35回国民体育大会

⓳
保存版記録
第31回全日本学生選手権大会

㉖
７ツボタンの予科練の地に
いまはばたく飛翔クラブ

㉘
羽根打ちサービス
禁止決定は来年５月28日か

㉜
ユーバー杯組合せ・代表決まる
北田が加わり〝女王〟湯木はずされる

㉞
中大，春秋連続で22回目の優勝
日体大７期連続・16回目の栄冠

㊳
いよいよ開幕・第２回日本リーグ
サントリーの堅城くずすのはどこか

㊷
バドミントンの用語ＡＢＣ
Ｌの項～Ｍの項

◇表紙デザイン・構成，本文カット＝野間デザイン室
◇今月の表紙＝オールジャパンを制した **新チャンピオン・長谷川博幸**　撮影＝赤星三樹

らず☆北田は圧勝で新女王に

オールジャパン'80（昭和55年度全日本総合選手権大会）は、11月20日から23日まで、東京大田区体育館、国立競技場代々木第二体育館で行なわれた。

今年の日本一を決める最大のイベントだけに、各選手は闘志をこめて戦った。

小島一平と湯木博恵のもつ5連勝にあと1と迫った銭谷が、どのような試合を展開するかが最大の焦点となった。

今年は、全日本実業団、全日本社会人で圧倒的な強さを示し、今大会でも当然最右翼とみられた銭谷であるが、準々決勝の対飯野戦で大苦戦。

1—1で迎えたファイナルゲームも先に8ポイントを奪われてのチェンジエンドという苦しいゲームとなった。しかし、ネットに自信をもつ銭谷は最後までスマッシュとヘアピンの勝負で、14—10と逆転し、ようやくマッチポイント。

飯野がネット前から辛うじてレシーブしたシャトルは、コート中央へフラフラと上がった。

万事休すとみた飯野は、ホームポジションからラケットを高く挙げたまま、ネット際に突進、銭谷が全力で放ったスマッシュは、飯野のラケットのジョイントに当たり、銭谷側にポトリと落ちた。

満場どっとわいたが、これは顔面の防護とは判定されず、インターフェアの宣告でゲームセット。

決勝の相手とみられた土田だったが、準決勝で長谷川に逆転負けを喫し、今年も悲願は達成できなかった。

銭谷対長谷川の決勝は、大方の予想では銭谷の圧倒的有利、しかも長谷川は準決勝でファイナルゲームを戦っており、スタミナに難のある彼としては、ますます不利と思われた。

この楽勝ムードとはウラハラに、銭谷は体が重く、動きが悪い。第1ゲームは中盤までせったのみで、あっという間に連続得点を許してしまった。

第2ゲームは、じつに9—0と長谷川が大差をつけ、場内には〝銭谷危うし〟のどよめきが広がった。

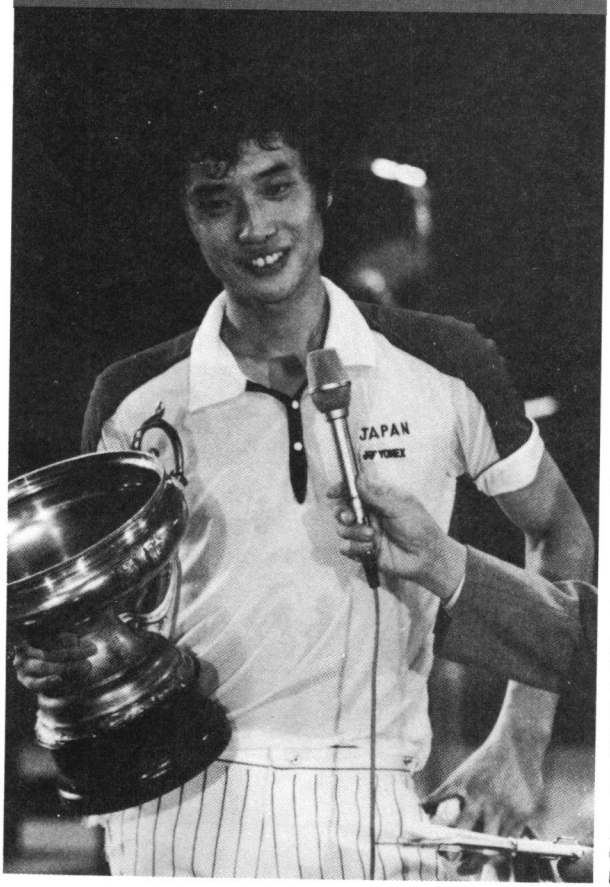
このピンチを2—9から10オールまで追いついた時は、さすが銭谷、これで一気に逆転し、ファイナルゲームも銭谷が連取するだろうという感じが強かった。

ところが、ここで集中力が切れ、またしても連続してポイントを失い、14—10で長谷川がマッチポイントをにぎった。

汗びっしょりの長谷川は何とかあと1本ということで必死ならば、銭谷は捨て身のスマッシュでばん回をねらい、とうとう14オールのセッティングに追いついた。

この追いついたスマッシュが銭谷敗戦への伏線となったのは

完璧なレシーブの長谷川



✣昭和55年度全日本総合バドミントン選手権大会

銭谷、長谷川に屈しV5な

皮肉である。長谷川のバックハンドへ突きささったスマッシュだったが、拾い切れなかった長谷川はコート上に転倒。コートが汗にぬれたのである。サービスジャッジがモップを持ち出し、コートを〝念入りに〟拭った。

この数分間で長谷川は気を取り直すとともに、スタミナの消耗もひと息ついたのである。

セッティングは3―1で長谷川が奪い、初優勝にかがやいた。

ほとんど自分からミスをしない長谷川のプレーは、おそらく彼の人生において今までで最高のものであっただろう。

その長谷川に対し、あえてショートサービスを多用し、かえってコート奥に追いつめられ、スマッシュをカウンターレシーブされるなど、銭谷には作戦面のミスもみられた。

しかし、負けるときというのはこういうものだ。運にも見放され――コート上の汗、再三ライトに入った長谷川のクリアー――銭谷はV5を逃した。

これで長谷川もやればできるのだ、ということを確信しただろうし、銭谷もこのまま引き退れない、という念をもったことだろう。

土田を含め、今後が楽しみな男子シングルスである。

▼男子シングルス▽準々決勝 銭谷（河崎ラケット）2―1飯野（ヨネックススポーツ）、舛田（明和養護高教員）2―1坂本（トヨタ自工）、長谷川（ヨネックススポーツ）2―0日下（百十四銀行）、土田（電電東京）2―0西山（中央大学）

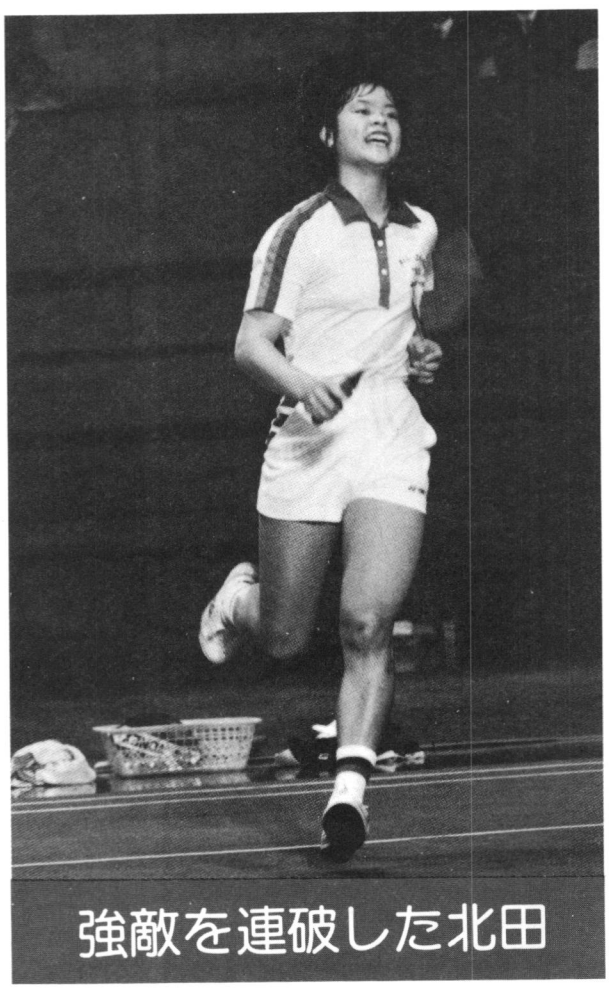
▽準決勝

銭谷 2（15―7 15―4）0 舛田

長谷川 2（15―8 15―12 15―9）1 土田

▽決勝

長谷川 2（17―15 15―8 15―8）0 銭谷



強敵を連破した北田

北田の強さがひときわ目立った女子シングルスである。

過去6回の優勝をとげている〝女王〟湯木と対戦した3回戦、北田は持ち前の速いドリブンクリアーで湯木をゆさぶり、チャンスボールを待って両サイドにスマッシュを叩き込んだ。

湯木はたんねんにシャトルをつないで北田のミス、甘いレシーブを待つが、北田は苦しくなると大きくクリアーで返し、ラリーをふり出しに戻した。

とくにバックハンドを攻められると、あえてハイバックを用いずに、サイドハンドで大きく振り回す〝コーペン式〟バックハンドで巧みに逃げたのである。

1ゲームを奪ってからは、北田は大声を出し、自らをはげまして湯木を押しまくった。

「とにかく湯木さんとの試合に焦点を合わせ、湯木さんに勝つことだけを目標にやってき

米倉・徳田はラクラク2連覇

た」という北田は、ついに、〝女王〟を破ったのである。

準々決勝の相手はナショナルチームの東海林。湯木を破って目的を達した北田は、気が抜けてしまったかのようにプレーに精彩なく、東海林のワンサイドゲームとなった。

第1ゲーム11—3、第2ゲームも10—7でマッチポイント。場内の〝北田ムード〟にまどわされることなく、冷静に黙々とシャトルを追ってつかんだマッチポイントで、東海林にホッと安堵の表情が浮かんだ。

そしてネット前に上がったチャンスボール。〝北田ベスト4ならず〟と思った瞬間、東海林のスマッシュはネットにひっかかってしまった。

これで北田は元気を取りもどし、何度かのサービスもしのいで10オールに追いつき、一方の東海林はショックが尾を引いたのか、北田の勢いをとめることができなかった。

第3ゲームは本来の北田のペースを取り戻し、11—4でベスト4入りを決めた。

準決勝の徳田は第1ゲームこそセッティングとなったが、第2ゲームは2ポイントどまり。

そして迎えた決勝。

ニコニコしながら体をほぐす北田、ぐっと歯をくいしばってウォームアップをする米倉。その表情はきわめて対照的。

北田のサービスでゲーム開始。声を出して快調な出足の北田。米倉得意のフェイント気味のドロップショットも、北田のクリアーに押されて決まらない。

米倉はプレッシャーなのか動きが悪く、北田の速いクリアーに押し込まれ、苦しまぎれのドロップは高い位置でヘアピンを落とされるというくり返し。

北田はネット前からフェイントをみせる余裕も出て11—3で優勝へ大きく近づいた。

第2ゲーム前半、北田はやや無理打ちが見られ一進一退。しかし、逆に米倉の無理な体勢からのスマッシュがサイドを割って4—2となると、リラックスしたのかハーフスピードのスマッシュを決め、長いラリーをねばり抜くなど一気に8—2と引き離した。

9—3であと2ポイントとなると、18歳・恐いもの知らずの北田もやや固くなり、ペースを乱してミスを続け、また、単調な配球で9—7までばん回された。

9—7で北田のサービスのとき、米倉は中間の甘いボールをネットにひっかけてしまい、ついにマッチポイント。北田は肩で息をしながらも、ラリーを丁寧につなぎ、最後はまたしても米倉がスマッシュをネットにかけて、ゲームセット。18歳の新女王が誕生した。

北田は、早くからその実力をみせながら、日本のナショナルチームにはいれずにいたが、今回のオールジャパン制覇で、文句なくナショナルチーム入りを果たした。

高い打点（164センチ）からのスマッシュと速いクリアーは、いまの日本では右に出る者がいないといえよう。さらに、ネットプレーも進歩をとげており、ユーバー杯防衛への貴重な戦力となることは間違いない。

▼女子シングルス▽準々決勝
米倉（電電東京）2—0端（河崎ラケット）、近藤（河崎ラケット）2—0原口（サントリー）、徳田（サントリー）2—0高田（サントリー）、北田（四条畷学園短大）2—1東海林（サントリー）

▽準決勝

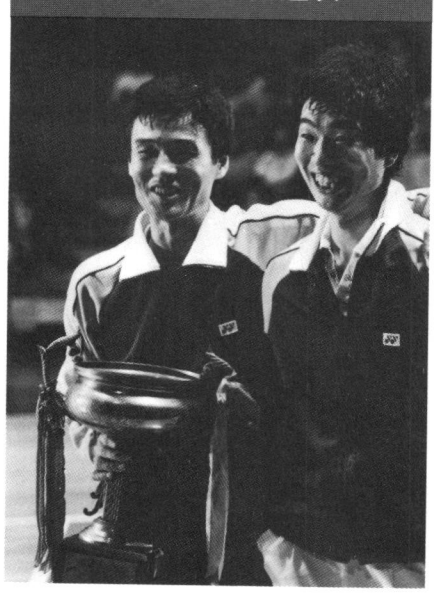
米倉	2	11	5	11
		11	11	0
近藤	1			

北田	2	11	12	11
		2	11	
徳田	0			

▽決勝

北田	2	11	11	
		7	3	
米倉	0			

よみがえった速攻



⚜昭和55年度全日本総合バドミントン選手権大会

飯野・土田2年ぶりに復活

昨年チャンピオンの池田・尾崎組は、3回戦の栗原・今井戦でマッチポイントをにぎられるなどベスト4入りがやっとの状態。

2年ぶり4度目の優勝をねらう飯野・土田組も準々決勝の今泉・米沢戦で第1ゲームを取られ、かつての猛打速攻のイメージからみると、やや迫力が落ちた感じであった。

池田組を破って決勝へ進んだ辻・長谷川組はサービスの甘さを突かれ、どうしても連続ポイントができず、飯野のスマッシュ、土田のプッシュに押されっ放しであった。

全体的にみて男子ダブルスは実力が接近しはじめており、この中から若いペアが台頭すると楽しみなのであるが、学生チャンピオンの上原・西山組がベスト8に入ったのが最高という弱体ぶりであった。

結果よりも、むしろそのガッツのないプレーぶりが残念であった。

▼男子ダブルス▽準々決勝

池田・尾崎（電電東京）2―0神戸・高岡（足羽高教員・芦原中教員）、辻・長谷川（ヨネックススポーツ）2―0後藤・栂野尾（ヨネックススポーツ）、田所・大場（電電東京・ピークスポーツ）2―0上原・西山（中央大学）、飯野・土田（ヨネックススポーツ・電電東京）2―1今泉・米沢（高岡市役所）

▽準決勝

辻・長谷川 2（15―11 15―6）0 池田・尾崎

飯野・土田 2（15―8 15―7）0 田所・大場

▽決勝

飯野・土田 2（15―7 15―6）0 辻・長谷川

⚜

女子ダブルスは、男子以上に学生陣の地盤沈下が目立った。インカレ2位の田村・高鴨組は松田・新木の高校生ペアに、インカレ3位の浜田・清藤組も高峯・陣内の高校生ペアにそれぞれ1回戦で敗れ去った。

レベルが接近したと解釈すべきか……。

結局インカレ優勝の北田・富田組がベスト8に入っただけであった。その北田・富田は大型ダブルスの威力をみせての8入りだったが、米倉・徳田にはうまくレシーブされ、ストレート負けを喫した。

予想どおりの対決となった決勝は、1ゲーム目の中盤で高田が足を痛めたため試合にならず、盛り上りを欠いた。

▼女子ダブルス▽準々決勝

米倉・徳田（電電東京・サントリー）2―0北田・富田（四条畷学園短大）、関根・谷（ヨネックススポーツ・サントリー）2―1河村・平（三洋電機）、栂野尾・月岡（ヨネックススポーツ・新潟青陵短大）2―0大塚・東海林（ヨネックススポーツ・サントリー）、高田・近藤（サントリー・河崎ラケット）

▽準決勝

米倉・徳田 2（15―10 15―5）0 関根・谷

高田・近藤 2（15―7 15―7）0 栂野尾・月岡

▽決勝

米倉・徳田 2（15―6 15―6）0 高田・近藤



コンビネーションの勝利

⚜

エントリーわずか17ペアで、そのうち2ペアが棄権という寂しい混合ダブルスだったが、優勝ペアの中井・端のがんばりはみごとだった。

とくに端は準決勝でファイナルゲームを闘ったが、当日シングルス3試合7ゲーム、混合ダブルス1試合3ゲームを経験していた。

しかし、強靱な精神力で劣勢をはね返し、決勝進出を決めた。決勝も栂野尾夫妻とファイナルゲームになったが、中井のカンのいい動きと強打、端のねばりづよいレシーブがよくかみ合って、2年ぶり2度目の優勝を勝ち取った。

チャンピオンをめざせ！



銭谷欽治

連載を続ける前に一言。

私は、11月22日、昭和55年度オールジャパン決勝において、長谷川博幸選手の後塵を拝してしまった。

今年勝つことができれば、小島一平さん、湯木博恵さんと肩を並べる5年連続のタイ記録だったことは十分承知していた。

いや、承知していたというより、ここ数年の目標であったという方が素直に私の気持を表現している。

それだけに、大会前からいつになく緊張していたことは確かだったが、その雑念やプレッシャーをはね返すことができなかったのが悔しい。

今は、試合を振り返って語ることはできない。精神的にも技術的にも、それは言い訳になるだけだからだ。

後日、敗因を語る機会がくるとすれば、来年度にチャンピオンの座を奪回できたときだと思う。

私も〝チャンピオンをめざす〟一プレーヤーとして白紙に戻らなければならない。

この連載は、読者の皆さんにとってももちろんのこと、私自身にとっても意義深いことと痛感するのである。

⚜

さて、2年でインターハイに出場できたことは、思いもよらぬ幸運だった。先輩とコンビを組んだダブルスだけであったが、視野が広がるような気がした。

3回戦敗退だったが、大聖寺に帰ってから学校内の練習では、同僚のシャトルのスピードが遅く感じて仕方なかった。

ちょうどそれは、何年か後に初めて全英選手権に出場したときのそれと類似している。

ハルトノやプリ、デルフスのプレーを目のあたりにし、また実際にラケットを交えてから帰国すると、大学での練習が急に楽になった。自由自在にラケットを操ることができた。

その印象はまったく同じものと言っていいだろう。自分のレベル以上のプレーに出会うことは、それ以後のプレーに強い影響を与えてくれるものだ。

それまでは、インターハイがあることすら知らず、出場権を得て初めてその存在に気づくほどだった。清浄無垢というか、ただ無心にシャトルを追いかけ、先生に指示されたとおり、県内の試合を目標にするだけだった。その上のことなど見ようともしなかった。

幸いなことには、その県内である石川県が、当時金沢市立工の全盛期で〝打倒シリコ（我々は金沢市立工業高校をそう呼んでいた）〟は即ち、知らず知らずのうちに全国のトップレベルを目指していたことだった。井の中の蛙だったにもかかわらずである。

石川県が全国でもトップレベルにあり、しかも我々はそれを知らずに伸び伸びとプレーすることができた。

これが私の、高校時代唯一のそして最大の財産になったのである。

3年生になって、恩師の村西先生が他校へ転勤になり途方に暮れたこともあった。

それまでは、バドミントンのイロハを手に取るようにして教えられ、練習方法などすべて村西先生に頼っていただけに、そのショックの大きさは例えようもなかった。先生の残してくれた練習日誌を手がかりに、自分達で方法を考え、暗中模索しながら進んだ懐しい日々である。



3年のインターハイでは、その村西先生も金沢二水を引率されて名古屋に来られ、私にもアドバイスを送ってくれた。

おかげでシングルス準優勝という好成績を収めることができたが、前にも述べた通り、私の高校時代の勲章は、インターハイの成績でもなければ国体でもない、純粋に無欲にバドミントンと取り組むことができた環境であり指導であり、大聖寺高校そのものであった。

バドミントンへ対する愛着心、情熱を、インターハイの成績よりもはるかに大きく育ててくれたものが、私の今でも脈打つ原動力なのである。

言い換えるなら、過去の栄光や、目標にするタイトルよりも、もっと大きな〝秘めたる闘志〟こそが、スポーツマンに一番大事なそして不可欠な要素ではないだろうか。

目標を達成できないことは、達成できることよりも数倍も多い。挫折しては立ち直り、挫折してははい上がらなければならない。

それを支えるのは、やはりバドミントンを〝好きだ〟と思う気持以外にはないと思う。

良い手本といっては失礼にあたるかも知れないが、大聖寺高校の先輩でもあり現在活躍中の長谷川進さん（松任農高教員）である。

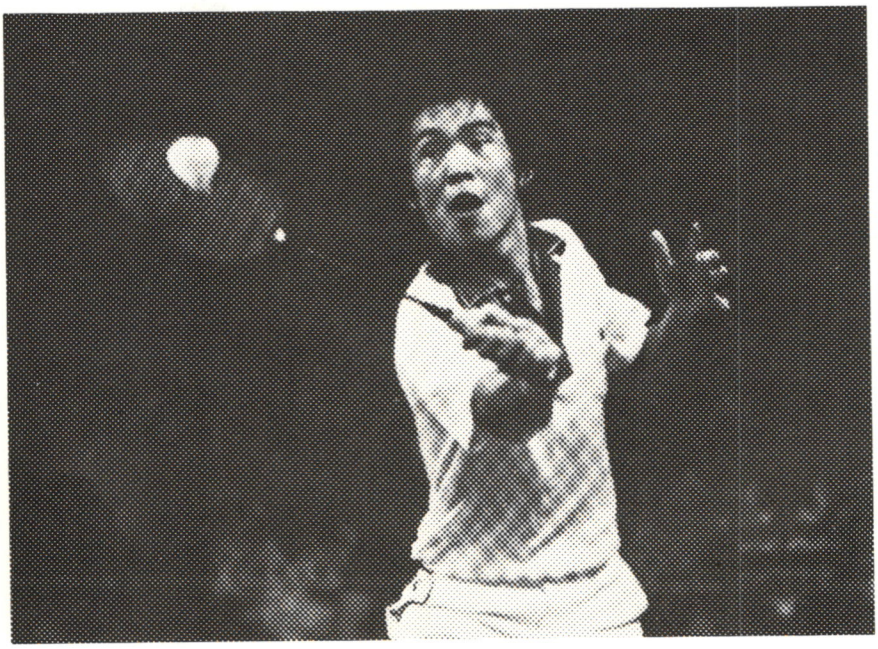
高校、大学時代は無名だったにもかかわらず、30歳を越えてからコンスタントに上位に名を連ねるようになったのは驚異としか言いようがない。33歳を迎える現在でも、プレーに対する情熱を燃やし続ける姿勢は、若者に優るものがあり、ただただ頭が下がる思いがする。

長谷川進さんの〝秘めたる闘志〟はいったいどれぐらいなものなのか、おそらく想像を絶するものがあると思う。

私も負けず嫌いを自負しているつもりだ。そしてバドミントンへ対する情熱を育んでくれた恩師、仲間、母校への感謝という意味においても、かならずオールジャパンのタイトルをこの手に奪い返し、長谷川進さんの年齢まで維持することが目標である。

思えば、小島一平さんも大学の三冠王になった年、勇躍オールジャパンに臨んだものの、見事に高校生に敗れ、これ以上はない屈辱感を味わったとこんこんと話してくれたことがある。しかし数年後には、その敗れた相手の河村博之（旧姓盛野）さんを恩人と思うようになった、とも語ってくれた。

私も幸い、〝秘めたる闘志〟は少しも失ってはいない。明日とは言わず今日から〝チャンピオンをめざせ〟と自分自身を叱咤して、ゼロからスタートを切ることにする。



デルフスもL・S・キンもハルトノも悩まされた

"羽根打ちサービス"是か非か！

選手にとって、観客にとって、このサービスは何を与える？

本誌9月号や、今月号28ページでお知らせしましたように、〝羽根打ちサービス〟（ハバース・スピン・サービス）を禁止しようという動きが、ヨーロッパ諸国を中心に広がっていますが、この問題についてスリッシュ・ナドカルニ氏が、〝バドミントン〟10月号に意見を述べていますので、要訳してご紹介しましょう。

スピン・サービスはバドミントン競技をだめにしているのだろうか？

舞台は一九八〇年全英選手権。七七年男子選手権者、デンマークのフレミング・デルフスはひょろひょろとしたマレーシア選手ミズブン・シデクと対した。

ミズブンのサーブの構えに観客の間にざわめきが広がった。かれは右利きだが、右足を前に出し、シャトルを上下逆さまに左手に持ち、羽根はガットに触れんばかりだ。

観客は次はどうくるかわかっていた。前の試合でミズブンはイングランドのウィルクスに楽勝、デルフスもウィルクスと同じとまどいをこれから味わわされようとしている。ミズブンのラケットは体と平行にそして左から右へと動き、キスのようなやさしさで羽根をかすった。

シャトルはネットを越え何度も回転し、ふらふらと流れた。デルフスは床上四インチのところで捕えて返球しようとした。しかしシャトルは、ラケットに触れてから、サイドラインの2フィート外側に落下！　シデク1―0。

デルフスもさすが元世界チャンピオン、ありとあらゆる技を使った。しかしそのたびにシャトルは急にサイドへそれた。どうにかミズブンのコートに返球してもやっと中央に達するだけで、このノッポのマレーシア選手は強烈なスマッシュを決めてラリーにはならない。

デルフスはシャトルをプッシュすることも試みたが、ネットに打ちこんでしまっただけだった。第1ゲームは15―10でミズブンがとった。

次の2ゲームを15―4、15―4でデルフスがとったのは、かれの激しい気性とその妙技を物語るものだろう。ほとんどサービスライン上に構えて、意地悪くスピンしてくるサービスにアタックした。タッチのタイミングが早ければ十分に相手のコートに打ち返すことができる。

舞台は変って、一九七六年全英選手権ペア、スウェーデンのフローマン・キールストロム組とマレーシアのシデク兄弟ラジフ、ジャライニ組との3回戦。

若いマレーシア組が勝ったほかは、これもデルフス対ミズブンの対戦の再演だった。第2、第3ゲームを15―4、15―11でマレーシア組がとった後、キールストロムは

「あのサービスは競技をダメにしているよ」と厳しい言葉を吐いている。

「あれじゃサーバーに不公平な優位さを与えることになる。セカンド・ストロークがネットに突っこんだり、コートを飛び出してしまうんじゃまともなラリーはできないんじゃないか」

「このサービスは禁止すべきだ。さもないとこの競技の楽しみはうんと消えてしまうよ」

とフローマンも言っている。シデク兄弟はすぐれたペアだ。

しかし、あのスピンサービスができなくなれば、二人を破るペアは少なくとも一ダースはいる。

「重いコルクのシャトルをくれよ、そうすりゃシデク兄弟を倒すのをお目にかけるから」

トップ・プレーヤーの一人はそう言った。

軽いコルクのシャトルの方がいつまでも回転する。重いコルクのシャトルの場合、受けるのが遅くても、床上数インチの所からでも打ち上げて返球することができる。

しかし、必ずしも重いコルクを必要としないことは準決勝でのインドネシアのチュン・チュン、ワジュディとの対戦で実証された。最初このサービスに途方に暮れたこのチャンピオン組はこのサーブをプッシュせずにスピンが終るまで待って受け、バックラインに返球した。

二人ともきめの細かい守備を続け、少しでもチャンスがあれば形勢を逆転させようとした。チャンピオン組は15―11、15―4とシデク組を破り、作戦と経験の勝利を実証した。

マレーシアでは、シデク三人兄弟によって完成されたこのサービスを〝S〟サーブと呼んでおり、これを武器としてミズブンはインド・マレーシア親善試合で全英チャンピオンのプラカシュに圧勝している。

インドネシアのリム・スイ・キンも世界選手権でのミズブンとの対戦では、少なからず悩まされた。

このスピン・サービスはシデク三兄弟が完成する以前はあまり知られていなかった。インドのサティシュ・バーシャは、その左のフォアハンドでシャトルを思いきりねじり、ルディ・ハルトノも一九七〇年インドを訪れた際かなりこのサービスにはてこずった。

これをフォルトとするインドネシア・チームの抗議は、打球時のラケット・ヘッドの位置を当時の規則に照らして却下された。

インドネシアのルイス・ポンゴはバックハンドでこのサービスを用いて昨年トマス杯にデビューして効果を挙げた。日本のNo.1、No.2の銭谷と土田もこの扱いに苦しみ、何点か失っている。

だがポンゴのサービスはシデク兄弟のものにはとうてい及ばない。弾丸のように手許に飛びこんでくる。

このサービスは現在の競技規則の規定から見て、ラケット・ヘッドの角度も十分であり、〝二段アクション〟の影もないスムースなアクションで全く合法的である。主な国際試合で使われるシャトルコックは羽根とコルクのバランスがよく、スピン・サービスには理想的だ。

したがって、ヨーロッパ選手たちがこの技術をマスターするまでは、スピン・サービスはマレーシア及びインドネシアにとってはまぎれもなく有利だ。

このサービスは規則で規制あるいは禁止されるだろうか？このサービスによってバドミントンが観客にとってつまらないものになるだろうか？　ふりの観客にとっては、年季の入ったプレーヤーがしてやられるのは楽しいみものだろう。

しかし、相手にその力を発揮する機会を全く与えないほどの優位を一方が得ているというのは、この競技を覚えようという者にはやり切れない感じがするだろう。

そして、この優位さを効果のないものにするような対抗手段が見つかるまで、スピン・サービスはずっと議論の的となるであろう。



フライング・シャトラーのお知らせ

株式会社ホビーライフは、「バドミントン・ハンドブック」を発行するなど、ユニークな出版活動をしていますが、このたび素敵なステッカーを発売しました。デザインは写真のとおりですが、銀バクに黒と白で印刷したなかなか落ちついたもので、サイズは57ミリ×128ミリです。

フライング・シャトラーというのは、フロアを蹴ってジャンプスマッシュを叩きつける選手の意味です（シャトラーはバドミントン・プレーヤーのこと）。

右下には〝レッツ・エンジョイ・バドミントン〟の文字がデザインされています。

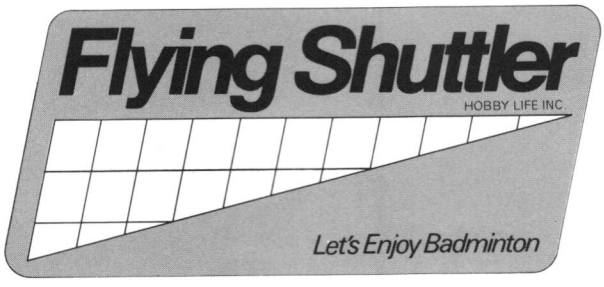
編集部では、読者の皆様にこのステッカーをお取り次ぎします。

定価は1枚150円ですが、5枚で600円、10枚で1000円に割引きとなります。

送料は枚数に関係なく60円です。

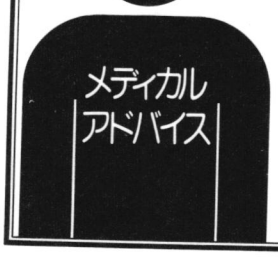
ご希望の方は、「フライング・シャトラー」と明記のうえ、本誌綴じ込みの振替用紙で代金をお近くの郵便局からお振り込みください。

バドミントン界編集部



バドミントンを楽しく

四谷健二郎



スポーツ心臓

今月から新連載「メディカル・アドバイス」が始まります。

バドミントンという競技は実際にプレーをしてみるとよくわかりますが、想像よりはるかにハードなものです。

ちょっとした不注意、準備不足などで体を傷つけてしまうこともあります。

そこで、体の仕組みや働きなどから、毎月テーマを選んでわかりやすく解説していきます。

★このページで取り上げてほしい悩みや問題がありましたら、どしどし編集部あてお送りください。

学校の身体検査で、

「キミの心臓は少し大きめだよ」

こういわれた人がいると思う。スポーツをやっている人によくみかける。

少し専門的になるが、X線写真や超音波診断で検査するとはじめてわかる。普通の人より型が丸くみえる。これは病気ではなく、仕事の能率はかえって増すともいわれる。

⊙心臓のしくみ

すきな人を思うとドキドキし、なにかおそろしいことにあうと早鐘のように打つ心臓、長い間人々は、心臓は心のすみかだと信じていました。

ギリシャの生んだ大哲学者アリストテレス（BC384）は、つぎのように考えていました。

「たましいのすみかは心臓である。頭は心臓から出た熱すぎる血の冷却装置だ」

この心臓は、胸の前にある胸骨の裏側にあります。大きさはこぶし大で、中央より、やや左側に位置している。

心臓は、心筋という平滑筋でつくられた中空の臓器で、中は四つの部屋にわかれていて、上の二つを心房、下の二つを心室と呼んでいます。左右の室の真ん中に中隔という壁があって、はっきりと左右に区切られているのです。

この四つの部屋というのは、それぞれ別の仕事をする二つのポンプが左右にとなりあっていて、一つのポンプが心房と心室の二つの部屋にわかれていると思えばよい。

左側のポンプは、肺で酸素を受けとってきた血液を大動脈を通じて、からだのすみずみまで送り出す。

右のポンプは、からだのあちこちで仕事を終え二酸化炭素で汚れてもどってきた黒ずんだ血液を肺へ送り出す。

人は、死なない限り心臓は動く。一分間に六〇回から八〇回、つまり一秒間に一回強の割合で動く計算です。人によっては、一〇〇歳以上生きる場合があるから、この運動は一〇〇年をこえることがあるわけだ。

ふつう運動をしていない平静時でも、一回の搏動で約一三〇ccの血液がおくり出される。

一分間には五リットルの血液を動かしているとすれば、一〇〇年で搏動の総数は四〇億回、おくり出す血液の量は六〇〇、〇〇〇トンになる。

心臓の搏動、このドッキンドッキンというリズムは、小さい心臓ほど早い。

カナリア　一分間に千回
ハツカネズミ　五〇〇回
ウサギ　二〇〇回
ネコ　一一〇～一二〇回
ライオン　四〇～五〇回
ゾウ　二〇回

人の平均を七〇回とすると女性は男性より一分間に六回から八回多く、乳児では一三〇回くらい。

この心臓の搏動つまりリズムをきめているのが、右心房の壁の中におさまっている洞結節です。冷血動物は、体の中での化学反応がおそいので、心臓の搏動数も少なくてすむ。

カエルは、気温が暖いときでも三〇回で、気温が下がるとこれよりさらに少なくなる。かりに気温が氷点下以下に下がろうものなら、心臓の動きは一分間に六回から八回になってしまう。

動物の中には冬眠して冬をこすものがいる。ヤマアラシ（インド・ヨーロッパ・アフリカにすむ）は、ふつう一分間に二五〇回ですが気温が下がり寒くなると、冷血動物と同じように動きがにぶくなり、それと平行して搏動数は一分間に三にまで落ちる。

また、人より大きい動物になると、搏動数は人よりおそくなる。

ゾウは二〇回ですが、牛では一分間に二十五回です。

⊙なぜスポーツ心臓になるのか

一分間に心臓のする仕事は三〇キロの重さの荷物を足元から頭の上に持ちあげるのに匹敵する。この仕事量は、自分の腕と脚の筋が出しうるエネルギーの約二倍にあたる。

ところが、腕とか脚はすぐつかれてしまうのに、心臓はいっこうに疲れをしらずに動きつづける。この理由はいまでも専門家の興味の対象になっているほどです。

人の心臓は、四つの部屋に分かれていると書きましたが、このうち一番かんじんなのは血液を体中に押し出す左心室でしょう。

この左心室の容積が一番広がったときをみると、健康の人で五〇ミリリットルから九〇ミリリットル、平均して七〇ミリリットルです。そして血液を送り出して一番小さくなるときは一四ミリリットルから三四ミリリットル、平均して二四ミリリットル、つまり三分の一にちぢんでしまうのです。

ところでこの心臓、血液を送りだすと一時期空っぽになるかといえばそうではなく、三分の二ずつ送り出している。

「あいつは心臓が強いからな」という。これとて、心臓が特別な鋼でできているわけではない。なにかにつけて押しの強い人を、

「あつかましい」という。それでは心臓の壁の厚さはどうなっているだろうか。

左心室の外側の部分についてみておこう。健康人で一センチ前後といったところ、病人の人で二センチ前後である。

心臓の重さはどうだろう。

外国のデータによるが、生まれた直後の新生児で二〇グラム、六カ月で三〇グラム、一歳で六〇グラム、十歳で一二〇グラム、十五歳で二五〇グラム、というのがほぼ平常値、そして加齢つまり年をとって老人になると重くなる、心臓もはじめてくたびれてくるわけだ。

心臓の重さを体重の何パーセントかとおぼえておくのもよい。男だと〇・四五%、女だと〇・四%となる。

心臓に毛がはえている、などとひやかされるこの心臓は、動物でも人でも、作業をしたりからだを動かすと酸素の必要量が多くなるので、心臓の搏動数も多くなり力強さをます。

このような搏動の増加は、精神的な緊張によっておこることは日常よく経験することです。恐怖・喜び・期待・興奮など「胸がドキドキする」ことでよくおわかりでしょう。

プロスポーツ選手は、長時間トレーニングするためでしょう。この人達のように長時間激しい運動をしている人は、体の筋肉と同じように心臓の筋肉も大きく肥大する人がいるものです。

その結果この種の運動選手の平静時の搏動数は、ふつうの人よりはるかに少なく一分間に五〇から六〇程度の範囲になっている。このように遅い搏動数でも心臓の力は大きいので、一回の搏動する血液量は多いから心配はないわけです。こういう人の心臓を「スポーツ心臓」とよぶのです。

心臓が収縮すると、血液は左心室から大動脈のなかへ強く押し出される。このため動脈壁に強い圧力が加わります。この圧力が血圧といわれるものです。

心室が収縮して血液が動脈に流れ込むときが最も血圧は高く、これを最高血圧または収縮期圧、心臓が拡張する時期が最も低くこちらの方を最低血圧または拡張期血圧といいます。

血圧は心臓の力と深い関係があるが、受け入れる側の血管の状態によっても血圧は変ってきます。

若い人、日頃からスポーツで体をきたえている人の動脈は柔らかく弾力性がありますから、一気に大量の血液が送られても血管がそれに応じて広くなるので血圧はあまり高くなりません。

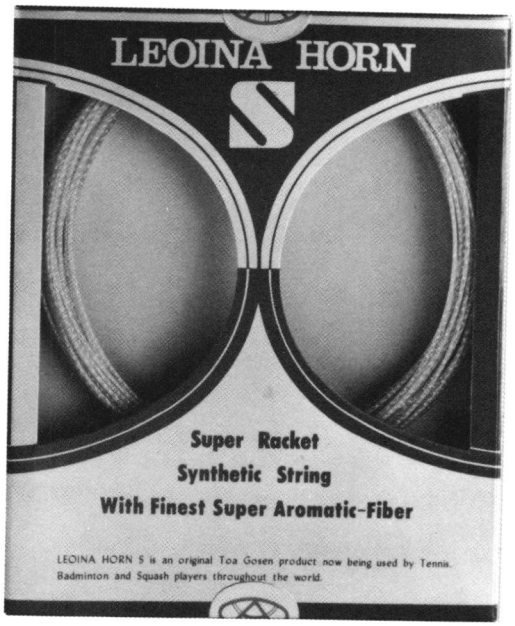
しかし、なにかの原因で弾力性のなくなった人の血管は、広がる余裕がないので、狭いところに大量の血液が入って血圧が異常に高くなってくる。

スポーツで体をきたえる必要がここにもあるわけです。左心室から出る血液のスピードは毎秒四〇センチ、時速になおすと一・四キロのスピードになるのですから。

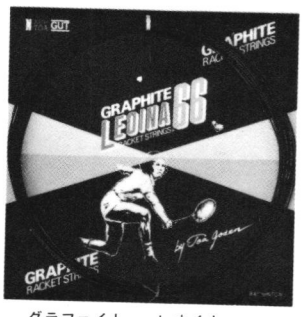


RACKET BADMINTON STRINGS

世界のトーアが贈る バドミントンガットシリーズ



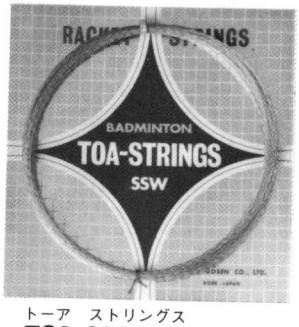
レオイナ　ホーン
LEOINA HORN S



グラファイト　レオイナ
GRAPHITE LEOINA 66



レオイナ　シープ
LEOINA SHEEP 66



トーア　ストリングス
TOA-STRINGS SSW



トーア　ストリングス
TOA-STRINGS SSW

東亜合繊株式会社

〒651　神戸市中央区八雲通３－１－24

☎078(232)1991(代)

◆成年男子の部

▽1回戦

千葉 2－1 滋賀
愛知 2－1 熊本
栃木 2－0 岩手
石川 2－0 鳥取
北海道 2－0 鹿児島
富山 2－0 岡山
大阪 2－1 香川
神奈川 2－0 青森

▽2回戦

愛知 2－1 千葉
石川 2－1 栃木
富山 2－0 北海道
神奈川 2－1 大阪

▽準決勝

石川 2－0 愛知
長谷川 2 15 15 0 山本
舛田 2 15 15 2 坂本
平松 2 15 15 2 0 堂谷内
今泉 2 15 15 0 池田
米 2 15 15 6 4 0 小島
小島 2 15 15 10 1 山本
管 2 15 9 15 13 15 坂本
神奈川 2－1 愛知

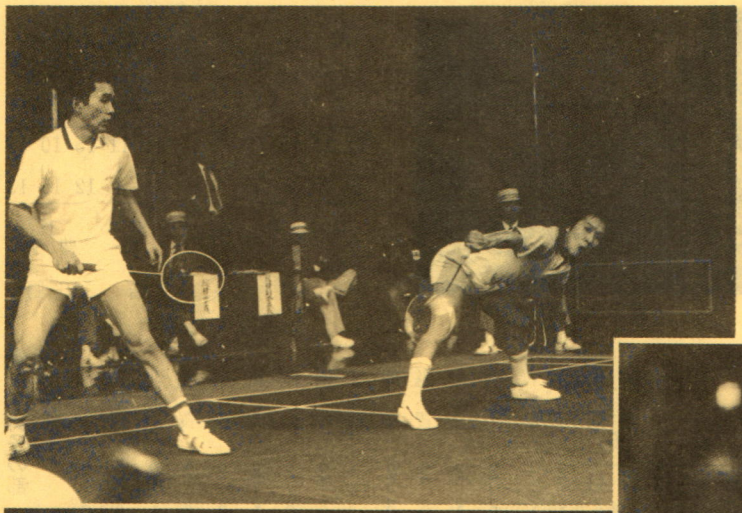
▽3位決定戦

管 0 7 9 15 15 2 坂本
富山 2－0 神奈川

▽決勝

小島 2 18 15 17 13 2 18 1 山本
富山 2－0 石川
今泉 2 17 15 10 16 5 15 1 長谷川
米 2 15 15 9 4 0 長谷川

小島・管（神奈川）





牧野・今泉（富山）



山本・坂本（愛知）

◆成年女子の部

▽1回戦

秋田 2－0 高知
静岡 2－0 山梨
兵庫 2－0 愛媛
茨城 2－0 山形
京都 2－1 山口
岩手 2－0 宮崎
群馬 2－0 福井
和歌山 2－1 島根
三重 2－0 徳島
長崎 2－0 福島
宮城 2－0 長野
神奈川 2－1 鹿児島
栃木 2－0 秋田
福岡 2－1 石川
岡山 2－0 高知
滋賀 2－0 静岡
千葉 2－0 鳥取
青森 2－1 兵庫
富山 2－0 茨城
奈良 2－1 岐阜
香川 2－0 京都
埼玉 2－0 岩手
東京 2－0 三重
愛知 2－0 和歌山
群馬 2－0 熊本
新潟 2－1 長崎
北海道 2－0 神奈川

▽3回戦
大阪 2-0 宮城
栃木 2-0 福岡
滋賀 2-1 岡山
千葉 2-0 青森
富山 2-0 奈良
埼玉 2-1 香川
愛知 2-0 群馬
東京 2-0 新潟
大阪 2-0 北海道

▽準々決勝
滋賀 2-1 栃木
千葉 2-1 富山
愛知 2-1 埼玉
東京 2-1 大阪

▽準決勝
滋賀 2-1 千葉
谷 2 (11 11 15 10 15 15) 1 飯野 豊田
若村 2 (15 15 7 11 9 15) 1 谷 飯野
阪口 0 (1 7 11 11) 2 本吉
谷 2 (11 12 3 10) 0 飯野
高岸 2 (15 15 12 11 4 15) 1 端 渡辺 小松
渡辺 2 (11 11 4 8) 0 柳田

▽3位決定戦
愛知 2-0 千葉

▽決勝
東京 2-0 滋賀
高岸 2 (15 15 6 2) 0 谷 阪口
渡辺 2 (11 11 2 5) 0 谷
渡辺 2 (11 11 2 4) 0 本吉
小松 2 (15 10 15 12 15 13) 1 飯野 豊田


飯野・豊田（千葉）



貴田・古賀（奈良）

◆少年男子の部

▽1回戦
熊本 2-0 鳥取
神奈川 2-0 石川
北海道 2-1 青森
滋賀 2-0 埼玉
新潟 2-1 静岡
奈良 2-0 福島
岡山 2-0 高知
栃木 2-0 鹿児島
熊本 2-0 神奈川
滋賀 2-0 北海道
奈良 2-1 新潟
栃木 2-0 岡山
松浦 0 (11 11 15 15) 2 井上 伊東
山本 2 (15 15 12 11 7 15) 1 井上
松浦 2 (15 15 6 11) 0 伊東
栃木 2-0 奈良
大島 2 (15 15 12 7) 0 貴田 古賀
大島 2 (17 15 14 12) 0 古賀
熊本 2-0 奈良
井上 2 (15 15 12 10) 0 貴田 古賀

▽3位決定戦
大島 2-0 古賀

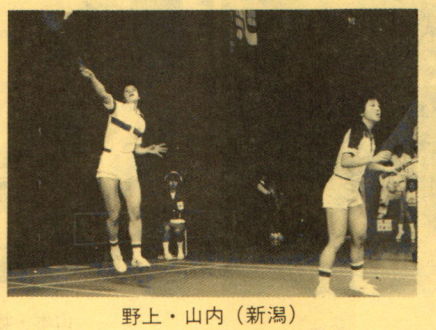
▽準決勝
滋賀 2-1 熊本
栃木 2-0 奈良

▽2回戦
熊本 2-0 神奈川
滋賀 2-0 北海道
栃木 2-0 鹿児島

▽決勝
伊東 2 (15 15 6 4) 0 中村
滋賀 2-1 栃木
山本 1 (13 15 4 18 10 15) 2 大島 松浦 2 (18 15 16 8) 0 戸村
山本 2 (15 15 11 10) 0 大堀 松浦 2 (15 11 10) 1 大島

◆少年女子の部

▽1回戦
大阪 2-0 長崎
栃木 2-0 山口
山形 2-1 北海道
富山 2-0 茨城
熊本 2-0 宮城
香川 2-0 群馬


野上・山内（新潟）

▽2回戦
愛知 2-0 岡山
新潟 2-0 奈良
大阪 2-0 栃木
富山 2-0 山形
熊本 2-1 香川
富山 2-0 愛知
大阪 2-0 栃木
新潟 2-0 富山
尾崎 2 (11 11 10 6 7 12) 1 今川 山内
松田 2 (18 15 17 9) 0 今川 向田
熊本 2-0 新潟
高峯 2 (15 15 10 1) 0 野上 山内
陣内 2 (11 6 11 5 11 9) 1 山内
新潟 2-0 富山
野上 2 (15 15 11 9) 0 今川 向田
山内 2 (11 11 3 2 11) 1 今川
熊本 2-0 大阪
高峯 2 (17 15 14) 0 尾崎 松田
陣内 2 (15 17 11 14) 0 尾崎 松田
高峯 2 (11 12 2 11) 0 尾崎

▽3位決定戦
新潟 2-0 富山

▽準決勝
大阪 2-0 富山
新潟 2-0 愛知

▽決勝
熊本 2-0 大阪

◆男子団体戦の部

▽1回戦
筑波大 3―2 北海道大
天理大 3―2 名城大
神奈川大 3―0 神戸大
仙台大 3―0 立命館大

▽2回戦
中央大 3―0 筑波大
甲南大 キケン 新潟大
福岡大 3―1 京都産業大
早稲田大 3―0 東北大
近畿大 3―0 国士舘大
慶応大 3―2 北海学園大
東北学院大 3―2 関東学院大
青山学院大 3―1 天理大
法政大 3―0 神奈川大
九州産業大 3―1 福島大
千葉商科大 3―2 大阪経済大
日本大 3―0 富山大
大東文化大 3―0 龍谷大
明治大 3―2 金沢大
北教大札幌 3―2 専修大
日本体育大 3―0 仙台大

▽3回戦
中央大 3―0 甲南大
早稲田大 3―0 福岡大
近畿大 3―1 慶応大
東北学院大 3―2 青山学院大
法政大 3―0 九州産業大
日本大 3―0 千葉商科大
大東文化大 3―1 明治大
日本体育大 3―0 北教大札幌

▽準々決勝
中央大 3―0 早稲田大
東北学院大 3―2 近畿大
日本大 3―1 法政大
日本体育大 3―0 大東文化大

▽準決勝
中央大 3―0 東北学院大
日本体育大 3―1 日本大

▽決勝
中央大 3―0 日本体育大

| | | |

◆男子シングルスの部

▽2回戦

西山　博司　2―0　山田　智嗣
（中　大）　（日体大）

小野寺誓　両者キケン　井坂裕一
（東京理科大）　（専　大）

貴田　昌史　2―0　保井　一志
（法　大）　（神戸大）

小池　博幸　2―1　篠原　尚紀
（大東文化大）　（仙台大）

上田　敏之　2―0　井原　孝夫
（日　大）　（島根大）

堀井　和弘　2―0　佐田　聡
（早　大）　（九州産大）

保科　正浩　2―0　山下　圭一
（法　大）　（日体大）

山本　秀樹　2―0　庄子　哲郎
（大経大）　（東北学院大）

松井　峰生　キケン　高階　尚緒
（近畿大）　（明　大）

井崎　典彦　2―0　滝川　和衛
（法　大）　（大教大）

佐藤　修一　2―0　尾山　隆啓
（東北学院大）　（青学大）

中島　俊也　2―1　佐賀　隆志
（北海学園大）　（中　大）

鎌田　啓睦　2―0　来栖　浩
（日体大）　（玉川大）

勝木　由夫　キケン　鳳　浩希
（日　大）　（龍谷大）

鎌田　喜久　2―0　杉山　保
（慶　大）　（千葉商大）

西堀　武　2―0　恩田　尚幸
（近畿大）　（中　大）

平野　勝彦　2―0　中川　隆文
（早　大）　（日体大）

下苧坪英雄　2―0　伊藤　洋一
（北教大函館）　（日　大）

千徳　勝利　2―0　武藤　良治
（東北学院大）　（明　大）

大通　良行　2―0　川嶋　栄司
（中　大）　（近畿大）

鈴木　雅之　2―0　堀田　将
（東北大）　（金沢大）

関根　忠　2―1　守安　達二
（日体大）　（法　大）

乾　哲司　2―0　北井　進
（天理大）　（東海大）

宮本　幸弘　1回戦両者キケン
（中　大）

久郷　俊明　2―0　西岡　宏
（法　大）　（仏教大）

石岡　直樹　2―0　下地　正樹
（北教大札幌）　（甲南大）

藤田　博之　2―0　山本　浩
（慶　大）　（日体大）

古賀　蔵　2―0　木立　三男
（福教大）　（東北福祉大）

水野谷　厚　2―1　山崎　哲彦
（早　大）　（大経大）

千葉　昌弘　キケン　岡　充洋
（中　大）　（京都産大）

羽田　俊哉　2―0　木原　正輝
（法　大）　（福岡大）

北橋　進　2―0　田村　博
（日体大）　（日　大）

上原　明　2―0　石垣　清貴
（中　大）　（日体大）

青木　義生　2―0　清水　亮全
（日　大）　（北教大函館）

林田　弘　キケン　加藤　博
（広島工大）　（明　大）

坂井外喜夫　2―0　増田　啓司
（日体大）　（近畿大）

藤沢　博史　2―0　星野　幸保
（法　大）　（大体大）

吉村　輝高　2―0　八木　弘
（中　大）　（大経大）

上村　秀章　2―0　真鍋　聡
（日体大）　（九州産大）

毛利　達彦　2―0　玉島　元信
（金沢大）　（専　大）

坂井　茂則　2―0　皆川　貢
（日体大）　（金沢工大）

高橋　裕一　キケン　小笹　博之
（日　大）　（龍谷大）

本石　俊憲　2―0　遠藤　高弘
（法　大）　（北　大）

江藤　正治　2―0　大柳　英樹
（福岡大）　（慶　大）

仲村　雅人　2―0　白井　徹
（日体大）　（大経大）

高橋　崇弘　2―0　藤井　聡
（早　大）　（天理大）

畑上　雅和　2―0　大阪　哲嗣
（九州産大）　（金沢大）

楠美　誠悦　2―1　小浜　充弘
（法　大）　（青学大）

須貝　英徳　2―0　粕谷　淳二
（中　大）　（慶　大）

工藤　重信　2―0　佐藤　賢司
（法　大）　（富山大）

若生　正弘　2―0　中川　憲照
（日体大）　（北教大札幌）

斉藤　芳宏　2―0　斉藤　篤司
（明　大）　（京教大）

稲垣　慎二　2―0　浜本　道雄
（日　大）　（近畿大）

本郷　毅彦　2―0　岩田　和久
（日体大）　（甲南大）

細谷　昇　2―1　伊藤　朗
（中　大）　（関東学院大）

尾形　一男　2―0　田中　敬也
（東北学院大）　（早　大）

吉兼　保　2―0　浦野　孝一
（近畿大）　（千葉商大）

松村　昌　2―0　田村　稔
（中　大）　（金沢大）

桜場　光浩　2―1　高橋　直樹
（東北学院大）　（法　大）

長谷川　貢　2―0　青木　年也
（明　大）　（関東学院大）

岩渕　信司　2―0　重野　幸治
（早　大）　（近畿大）

近藤　祥夫　2―0　中原　岳志
（名城大）　（青学大）

権藤　浩一　2―0　村上　英介
（日体大）　（福岡大）

丹藤　勇一　2―0　島崎　浩治
（法　大）　（大東文化大）

▽3回戦

西山　キケン　井坂
貴田　2―1　小池
上田　2―1　堀井
山本　2―0　保科
井崎　2―0　松井
佐藤　2―0　中島
鎌田　2―0　勝木
西堀　2―0　鎌田
平野　2―0　下苧坪
千徳　2―1　大通
関根　2―0　鈴木
宮本　2―0　乾
久郷　2―0　石岡
藤田　キケン　古賀
千葉　2―0　水野谷
北橋　2―0　羽田
上原　2―0　青木
坂井　2―0　林田
吉村　2―0　藤沢
毛利　2―1　上村
坂井　2―0　高崎
本石　2―0　江藤
高橋　2―1　仲村
楠美　2―0　畑上
須貝　2―0　工藤
若生　2―0　斉藤
稲垣　2―0　本郷
尾形　2―0　細谷
松村　2―1　吉兼
桜場　2―1　長谷川

（29ページへ）



いま、鮮烈のプロショップ

RACKETSHOP

Motomachi

ラケットショップ元町

◉横浜 Tel：5F/045-651-2020・045-662-9857 4F/045-662-7133◉渋谷 Tel:03-400-7390◉池袋 Tel:03-988-0215◉吉祥寺 Tel:0422-21-7890◉藤沢 Tel:0466-26-2552◉町田 Tel:0427-28-6050

GOSEN 30 YEARS
ラケットスポーツとともに30年

ガット新世紀。

ブレンドタイプ&ミクロタイプ誕生。
新しい2つのゴーセン。

常に、時代をひらく個性鮮やかなガットを創りつづけてきたゴーセン。その円熟の技術が、またひとつの新しい時代をひらこうとしています。画期的な複数ブレンド素材をベースに今、2種類のニュータイプガット誕生。多種の高性能繊維高分子ブレンド中空糸に特殊油を注入。反発力と全天候性を一段と高めたブレンドタイプ(特許出願中)。そして、常識をこえた超超極細ゲージを採用。シャープな球ばなれとシュアな打球感を実現したミクロタイプ(特許出願中)。新しい2つのゴーセンの誕生。いま確かな手応えで、ガットの新時代が始まろうとしています。

¥1,000
ウインテックス・ブレンド





ハイ・シープ・ミクロ
¥600



ラケットスポーツで世界をむすぶ
GOSEN

本社●540 大阪市東区農後町4☎(06)942-5816代　東京支店●〒111 東京都台東区蔵前4-14-2☎(03)862-6576代　福岡営業所●〒810 福岡市中央区薬院1-4-8☎(092)712-5247代　北陸営業所●〒921 石川県金沢市横川7-22☎(0762)47-0200代

ずらり、4店勢揃い。

渋谷店

760㎡（230坪）の広々とした店内でゆったりショッピング。

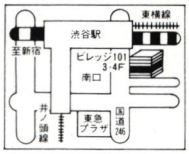


バドミントンコーナー



毎月曜日定休

東京都渋谷区桜ヶ丘町1-7（ビレッジ101ビル3-4階） TEL03-464-9251〜2〒150
●営業時間/午前10時〜午後7時30分
●日曜・祭日は午後7時まで

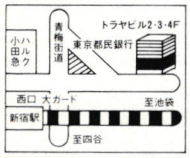


新宿店

落ち着いた雰囲気でお買いもの。各階それぞれの楽しさがいっぱい。

毎月曜日定休

東京都新宿区西新宿7-10-20（トラヤビル2・3・4階） TEL03-363-6848〒160
●営業時間/午前10時〜午後7時30分
●日曜・祭日は午後7時まで







バドミントン・フロア

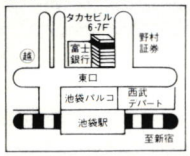


池袋店

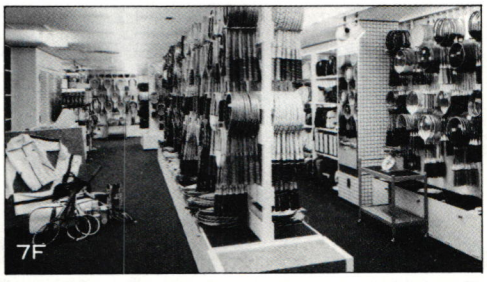
つぶ揃いのテニス、バドミントン用品が店内にあふれんばかり。

毎月曜日定休

東京都豊島区東池袋1-1-4（タカセビル6・7階） TEL03-989-0401〒170
●営業時間/午前10時〜午後7時30分
●日曜・祭日は午後7時まで

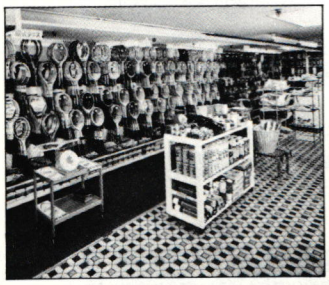






横浜店

ラケット、ウェア、シューズ……すべてに豊富な品揃え。選びやすい各コーナー。



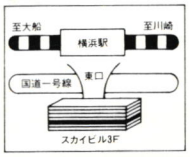


男性ウェア・コーナー



年中無休

横浜市西区高島町2-1 横浜駅東口
（スカイビル3階）TEL045-453-1785〒220
●営業時間/午前10時〜午後8時
●日曜・祭日も午後8時まで



日本最大のテニス・バド専門店
WINDSOR RACKET SHOP

WINDSOR ウインザー ラケットショップ。





グラファイトシリーズ

エイトシックス　B-86
グラファイトシャフト・グラファイトフレーム／黒(ケース付)
フレーム価格 13.000円

エイトツウ　B-82　フレーム価格 9.000円

エイティ　B-80　フレーム価格 8.500円

kawasaki
河崎ラケット工業株式会社



カワサキ アドバイザリー プロ スタッフ　相沢マチ子

いま世界に拡がる新しい打球サウンド

みがきぬかれた高度のテクニックと、時速250kmのスピードを競う世界のビッグトーナメント。白熱のコートで、続々と栄冠を勝ちとるエイトシックス。
トッププレーヤー絶賛の軽さと、強じんさ。そして、最新の打球サウンドを、あなたも体験してください。



七ツボタンの予科練の地に
飛翔クラブ
いま はばたく

クラブ名の由来

私達の住む阿見町は土浦市と接し、霞ヶ浦を一望する高台に拡がった住み良い町です。

昔、零戦が飛び、予科練の名で知られ、歌にも、「若い血潮の予科練の七つボタンは桜に碇、今日も飛ぶ飛ぶ霞ヶ浦にゃ、でかい希望の雲が湧く」と歌われた元海軍土浦航空隊のあった町です。

今では陸上自衛隊武器学校となっております。そして、その中に昔をしのぶ飛行服で身をかためた若鷲の像「雄翔」が建立されています。その雄翔にちなみこの名をつけたものです。

クラブの現況

特色……会則にあるとおり、やる気のある若いママさんが中心で、ファイトがあり、まだ一年しか経っていませんが、各種大会に参加し、かなり良い成績をあげている。またクラブ内で、会長杯争奪戦を行ない、互いに向上しようとはげんでいます。それから退会者が一人もいないのも特色の一つにあげられると思います。

○**組織**……簡単な会則があり次のようなことがあげられます。

※役員は会長一名、副会長一名、会計一名をおくこと。

※会計は、入会金千円、毎月五百円とし毎年三月三十一日に終る。

※年に一回総会を開き役員改選や会計報告をする。

○**練習**……練習日は毎週一回、日曜日の夜七時から九時までの二時間。

○**練習場所**……近くの小学校体育館でコートは四面。

さて、以上で私たち飛翔クラブのあらましを紹介させていただきましたが、やはり問題がないわけではありません。

何といっても一家を支える主婦が夜練習することだけでもご主人方の理解ある協力が必要でありますし、若いママさん方には、まだ手のかかるお子さんがいることも見落せないことです。

ですから練習においても会員が全部揃うことは困難です。それから練習時間にしても週一回二時間では前進することはほとんど望めません。それどころか、後退しなければ良いくらいです。

幸いなことにその点で、阿見町は大変恵まれています。なぜならば、阿見町には飛翔ク

ラブの他に十を数えるクラブがあるからです。それらのクラブはそれぞれ特色があり、練習日もほとんど重りませんので、やる気のある者は他のクラブにも所属することが許されています。

もちろん昼間の練習日を持つクラブもあるし、学校ごとのPTAの活動の中にもバドミントンクラブがあるので、やれる者は毎日でもやれるようになっています。

私自身も他のクラブに所属しています。主人が公認スポーツ指導員ということで、飛鳥(あすか)会というクラブの責任者にもなっていますので飛鳥会の会員にもなっており、飛翔クラブのコーチをしてもらったり、練習試合をしてもらったりしています。こんなケースは珍らしいかも知れませんね。

なお阿見町では、春秋の二回阿見大会が開催されます。秋の大会は町民だけの大会で、各クラブ対抗の団体戦と個人戦もあります。

今年は十一月三日に行なわれました。飛翔クラブは三位でした。春の大会はオープン参加ですから、どこのチームでも参加できます。皆様もぜひ一度お出かけください。

詳しいことをお知りになりたい方は、ご一報ください。最後に写真を一枚同封致します。全員が揃えば良かったのに残念です。男の方はコーチ陣です。女子は美人が揃っています。では読者の皆様どうぞよろしくお願い致します。

●責任者連絡先
茨城県稲敷郡阿見町学校区南
四六六六－一九四五
中根すい（電話〇二九八八－七－〇五一三）

ヤマハからラケット4種発売

昨年度の法人所得ランキング第103位(約195億円)という大手企業の日本楽器製造㈱が、来春からバドミントン分野に進出することになった。

同社はヤマハのブランドでピアノ、電子オルガン等の楽器を中心に、ステレオ等の音響製品、家具・ホーム用品、そしてスポーツ・レジャー用品で順調に伸展している。

とくにスポーツ用品はシンガポールに工場を建設するなど積極的に取り組んでいる。従業員約1万6千名。

当初は4種類のラケットを56年3月から発売する予定。その仕様、価格等は次のとおり。

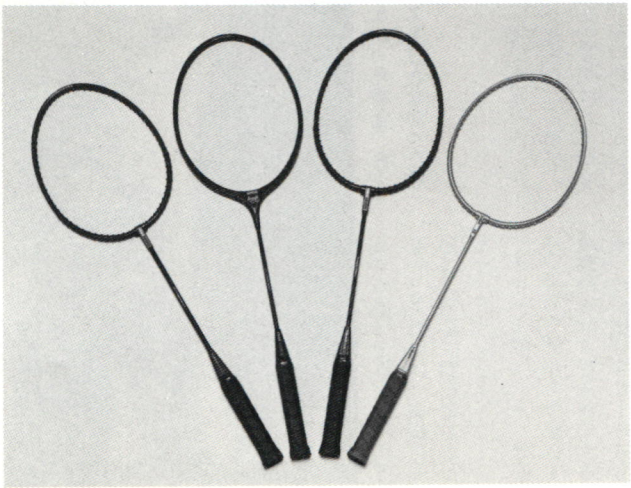
1 YB60（1万円）
フレーム＝アルミ合金、シャフト＝カーボン、カラー＝メタリックゴールド、ブラック、重量＝XSL（90～94グラム）、USL（95～99グラム）

2 YB50（9千円）
フレーム＝ウッドとガラス繊維強化プラスチックのコンビネーション7層、シャフト＝カーボン、カラー＝ローズウッド、重量＝UL（100～104グラム）、SL（105～109グラム）、L（110～114グラム）

3 YB40（7千円）
フレーム＝アルミ合金、シャフト＝スチール＋ガラス繊維強化プラスチック、カラー＝メタリックブラック、重量＝USL、UL

4 YB30（5千500円）
フレーム＝アルミ合金、カラー＝メタリックシルバー、重量＝SL、L、ML（115～119グラム）

左から YB60，YB50，YB40，YB30の4種



羽根打ちサービス＝リバース・スピン・サービス

禁止決定は来年5月28日か

IBF委員会は“有害”との決定くだす

“ベースは羽根よりも低く・・・”

本誌9月号で「羽根打ちサービスが禁止になる!?」と報道したところ、読者の皆様から非常に大きな反響があり、その関心の高いことに改めて驚いております。

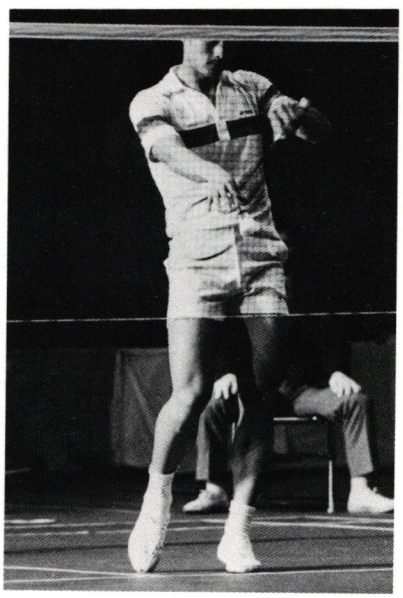
そこで、その後の動きをお知らせしましょう。

⊙昨年5月の国際バドミントン連盟（IBF）年次総会では、10月に委員会を開き、そこで運用に関する細則を決めるという予定であったが、現時点では結論が出ず次のような決定をした。

10月5日、コペンハーゲンにて委員会を開き、羽根打ちサービス（リバース・スピン・サービス）に関して討論を行ない、この新しいサービスは、バドミントン競技に対して〝有害〟であるとの意見をまとめた。

そして、来年の5月28日東京で開かれる年次総会において、次のような新しい規定を採択するよう提案する。

次のときはフォルトである。サービスのさい、サーバーによってシャトルのベース（コルクの部分）が羽根よりも低い状態で持たれなかったり、落とされなかった場合、および、ベースを打たなかった場合。



いよいよピンチの羽根打ちサービス

右の規定は案であるため、今後年次総会へ提案される前に、文章上の多少の変更はあるかも知れないが、その意図するところは変わらない。

⊙以上がIBFにおけるコペンハーゲン委員会の決定である。

英語ではリバース・スピン・サービスと呼んでいるように、羽根打ちサービスは、コルクの部分を上にすることによって、その威力が増大するわけで、この案のとおり、コルクの部分が羽根よりも低くなくてはならない、となれば、横に向けることもフォルトとなる。しかも、コルクの部分を打たなければならないとされれば、羽根打ちサービスは完全に姿を消すことになろう。

オーバーウェスト、オーバーハンドのフォルトを犯さずに、攻撃的なサービスができる〝妙案〟の羽根打ちサービスも、ヨーロッパ勢の猛反発にあって、その将来が危ぶまれているわけである。

もし、5月28日の年次総会で正式に採択されれば、わが国としても多少の準備期間をおいて、9月1日あるいは57年の4月1日付で実施となりそうである。

この件については、さらに編集部でフォローしていきますので、ご期待ください。

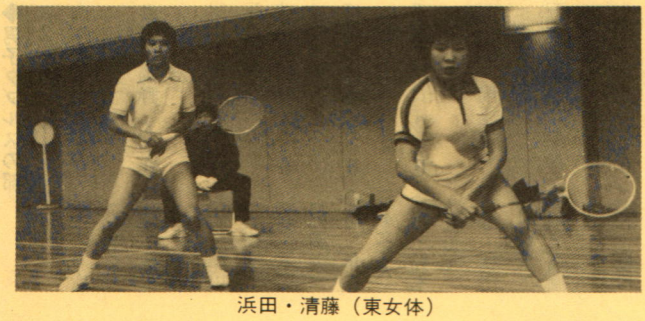
（20ページから）

岩渕 2-0 近藤
権藤 2-0 丹藤

▽4回戦
西山 2-0 貴田
山本 2-1 上田
井崎 2-0 中島
西堀 2-0 鎌田
千徳 2-0 平野
宮本 2-0 関根
久郷 2-0 藤田
北橋 2-0 千葉
上原 2-0 坂井
毛利 2-0 吉村
本石 2-1 坂井
高橋 2-0 楠美
須貝 2-0 若生
稲垣 2-0 尾形
桜場 2-0 松村
権藤 2-0 岩渕

▽5回戦
西山 2-0 山本
西堀 2-0 井崎
宮本 2-0 千徳
久郷 2-1 北橋
上原 2-0 毛利
本石 2-0 高橋
稲垣 2-0 須貝
権藤 2-0 桜場

▽準々決勝
西山 2（15-3 15-10）0 西堀
宮本 2（15-2 15-3）0 久郷


浜田・清藤（東女体）

上原 2（15-4 15-10）0 本石
権藤 2（17-15 15-11）0 稲垣
西山 2（15-13 15-8）0 宮本
上原 2（18-15 15-10）0 権藤

▽決勝
上原 2（15-10 15-5 10-15）1 西山

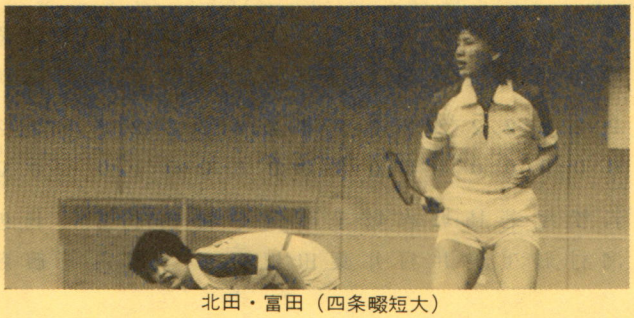
◆女子シングルスの部

▽2回戦
月岡 広美 2-0 井上ゆかり（新潟青陵）（東女体大）
松枝 睦子 2-0 昆野富士子（日体大）（東北大）
高峯 彰子 2-0 渡部久美子（日女体大）（島根大）
柴田 真弓 2-0 福田麻寿美（東女体大）（四条畷）
田村 圭香 2-0 成松 幸子（日体大）（北女短大）
大内美喜子 2-0 浅田 裕子（青学大）（東海大）
工藤賀世子 2-0 内山 晶子（東女体大）（金沢大）
石田 周子 2-0 大塚 静枝（四条畷）（日女体大）
山本美津子 2-0 寺田恵美子（筑波大）（武庫女大）
冨田美千代 2-0 小路 和世（四条畷）（日体大）
松本美由紀 2-1 青木 恵子（青学大）（日女体大）
浜田 由理 2-0 古賀ひとみ（東女体大）（福岡大）
笠松美智代 2-0 阿部 俊子（東女体大）（天理大）
野口 英代 2-0 石郷岡真弓（日体大）（東海女短）
内田ひろみ 2-0 品川 睦子（日女体大）（東北学院）
枝 美代子 2-0 桝田 令子（日体大）（北女短大）
藤井 良子 2-0 渡辺 美穂（日体大）（神戸商大）
白松千加子 2-0 高山 秀子（筑波大）（大妻女大）
南雲 栄子 2-0 簗田 理丘（東女体大）（大阪教大）
長尾うみ子 2-0 西本 秀子（日女体大）（東北福祉）
土田理恵子 2-1 米田 浩子（東女体大）（東海女短）
山中 知子 2-0 徳永 順子（大阪体大）（日体大）
山下奈々子 2-0 新田 恵子（日女体大）（北女短大）
北田スミ子 2-0 倉見 安世（四条畷）（日体大）
小野 順子 2-0 荒木 真実（日女体大）（青学大）
高鴨 芳香 2-1 直江 裕美（日体大）（金沢大）
原田 純子 2-0 菅 友子（日体大）（山形女短）
熊本 葉子 2-0 青山 寿美（東女体大）（四条畷）
彼島 佳子 2-0 大塚 貴子（青学大）（埼玉大）
樋渡 誓子 2-1 岩崎 由美（日体大）（東北学院）
大野真裕美 2-0 網家 玲子（日女体大）（武庫女大）
川島 直子 2-0 小池わかば（東女体大）（筑波大）

▽3回戦
月岡 2-1 松枝
高峯 2-0 柴田
田村 2-1 大内
石田 2-1 工藤
山本 2-1 冨田
松本 2-1 浜田
野口 2-0 笠松
内田 2-1 枝
藤井 2-0 白松
長尾 2-0 南雲
土田 2-0 山中
北田 2-0 山下
小野 2-0 高鴨
原田 2-0 熊本
彼島 2-0 樋渡
川島 2-1 大野

▽4回戦
月岡 2-0 高峯
田村 2-0 石田
山本 2-0 松本
野口 2-1 内田
藤井 2-1 長尾
北田 2-0 土田
小野 2-1 原田
彼島 2-0 川島

▽準々決勝
月岡 2（11-3 11-1）0 田村
山本 2（11-7 11-4）0 野口



北田・富田（四条畷短大）

北田 2 (11-7 11-2) 0 藤井

彼島 2 (11-6 11-7 5-11) 1 小野

▽準決勝

山本 2 (11-4 11-0) 0 月岡

北田 2 (11-2 11-0) 0 彼島

▽決勝

北田 2 (11-2 11-1) 0 山本

◆男子ダブルスの部

▽2回戦

山本・若生 2―0 尾中・虎枝（日体大）

貴田・岡野 2―0 井脇・楠本（法　大）

尾形・佐藤 2―0 八木・滝川（東北学院大）

武藤・斉藤 2―0 江藤・本田（明　大）

稲垣・伊藤 2―0 島崎・角谷（日　大）

千葉・須貝 2―0 今野・鈴木（中　大）

五十嵐・馬場キケン阿部・秋山（慶　大）

西堀・吉兼 2―0 羽田・高橋（近畿大）

小西・大通 2―0 毛利・堀口（中　大）

北橋・権藤 2―0 青木・福島（日体大）

木立・佐藤 2―0 鎌田・戸崎（東北福祉大）

久郷・本石 2―0 松井・重野（法　大）

勝木・青木 2―0 小池・梨子田（日　大）

岩渕・堀井 2―0 山崎・桂（早　大）

中川・石岡 2―1 石垣・田中（北教大札幌）

上原・西山 2―0 吉村・平田（中　大）

鎌田・坂井 2―0 乾・藤井（日体大）

清水・守安 2―0 下苧坪・清水（法　大）

松村・佐賀 2―1 浜本・川島（中　大）

小浜・尾山 2―1 篠原・土田（青学大）

本郷・山下 2―1 高橋・桜場（東北学院大）

井崎・工藤 2―0 阿部・有井（法　大）

井坂・藤橋 2―0 木原・村上（専　大）

平野・高橋 2―0 村尾・加藤（早　大）

宮本・吉村 2―0 正木・玉田（中　大）

六川・見城 2―0 千徳・針生（日　大）

藤沢・保科 2―0 増田・近藤（法　大）

保井・山川 キケン 長谷川・高階（神戸大）

水野谷・蘭 2―1 山本・白井（早　大）

熊木・中島 2―0 大阪・海道（北海学園大）

関根・上村 2―0 船水・佐藤（日体大）

丹藤・楠美 1回戦両者キケン（法　大）

▽3回戦

山本・若生 2―1 貴田・岡野

武藤・斉藤 2―0 尾形・佐藤

千葉・須貝 2―0 稲垣・伊藤

西堀・吉兼 2―0 五十嵐・馬場

北橋・権藤 2―0 小西・大通

久郷・本石 2―1 木立・佐藤

岩渕・堀井 2―0 勝木・青木

上原・西山 2―0 中川・石岡

清水・守安 2―1 鎌田・坂井

小浜・尾山 2―0 松村・佐賀

本郷・山下 2―1 井崎・工藤

平野・高橋 2―0 井坂・藤橋

六川・見城 2―1 宮本・吉村

藤沢・保科 2―0 保井・山川

水野谷・蘭 2―0 熊木・中島

関根・上村 2―1 丹藤・楠美

▽4回戦

山本・若生 2―0 武藤・斉藤

西堀・吉兼 2―1 千葉・須貝

北橋・権藤 2―0 久郷・本石

上原・西山 2―0 岩渕・堀井

小浜・尾山 2―0 清水・守安

平野・高橋 2―1 本郷・山下

六川・見城 2―0 藤沢・保科

水野谷・蘭 2―0 関根・上村

▽準々決勝

山本 若生 2 (15-13 15-6) 0 西堀 吉兼

上原 西山 2 (15-11 16-17 15-2) 1 北橋 権藤

平野 高橋 2 (15-9 15-7) 0 小浜 尾山

六川 見城 2 (15-6 15-2 15-18) 1 水野谷 蘭

▽準決勝

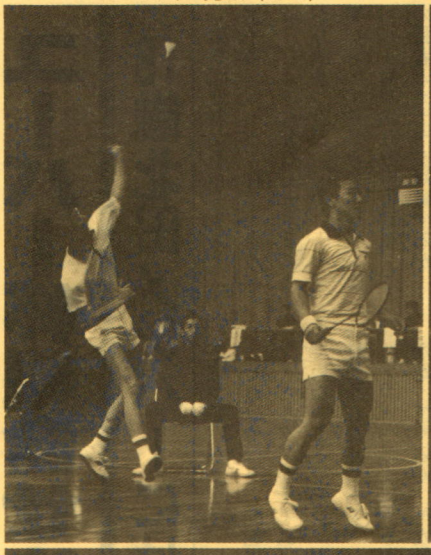
上原 西山 2 (15-15 15-3) 0 山本 若生

六川 見城 2 (15-4 4-15 15-4) 1 平野 高橋

▽決勝

上原 西山 2 (15-1 15-4 4-15) 1 六川 見城

六川・見城（日大）

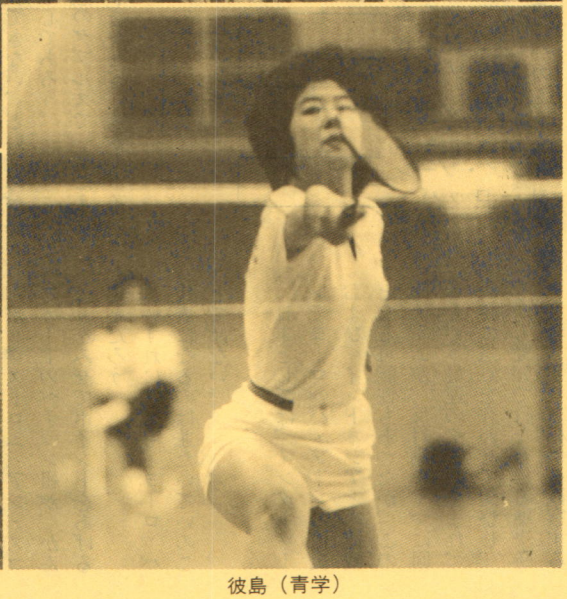


四条畷短大チーム





中央大学チーム



彼島（青学）

◆女子ダブルスの部

▽2回戦

藤井・枝（日体大） 2—0 深井・大塚（埼玉大）
松本・山菅（日体大） 2—0 川村・瀬戸（宮学女大）
原田・藤井（青学大） 2—1 青木・山下（日女体大）
浜田・清藤（東女体大） 2—1 網家・井口（武庫女大）
合川・石田（東女体大） 2—0 平野・須藤（四条畷）
田村・高鴨（日体大） 2—0 石郷岡・米田（東海女短）
阿部・吉川（天理大） 2—0 昆野・田村（東北大）
柴田・川島（東女体大） 2—0 秋山・藤本（日女体大）
松枝・徳永（専大） 2—1 遠藤・高橋（日体大）
土田・笠松（東北福祉） 2—0 西本・清水（東女体大）
大内・彼島（青学大） 2—1 青山・福田（四条畷）
小野・高峯（日女体大） 2—0 大森・寺田（武庫女大）
山本・白松（東女体大） 2—0 熊本・井上（筑波大）
品川・岩崎（東北学院） 2—0 長岡・大野（日女体大）
桝田・竹川（北女短大） 2—0 高山・染谷（大妻女大）
北田・冨田（日体大） 2—0 中島・樋渡（四条畷）

▽3回戦

藤井・枝（日体大） 2—0 松本・山菅（埼玉大）
浜田・清藤（東女体大） 2—1 原田・藤井（宮学女大）
田村・高鴨（日体大） 2—0 合川・石田（東女体大）
柴田・川島（東女体大） 2—0 阿部・吉川（東北大）
松枝・徳永（専大） 2—1 土田・笠松（東女体大）
小野・高峯（日女体大） 2—0 大内・彼島（青学大）
山本・白松（東女体大） 2—0 品川・岩崎（東北学院）
北田・冨田（日体大） 2—0 桝田・竹川（北女短大）

▽準々決勝

浜田・清藤 2 — 藤井・枝 1
15—11 17—14 2—15

田村・高鴨 2 — 柴田・川島 1
18—15 15—5 7—15

小野・高峯 2 — 松枝・徳永 0
15—8 15—10

北田・冨田 2 — 白山・松本 1
15—11 15—5 11—15

▽準決勝

田村・高鴨 2 — 浜田・清藤 0
15—2 15—8 15—9

北田・冨田 2 — 小野・高峯 0
15—2 15—7

▽決勝

北田・冨田 2 — 田村・高鴨 1
15—2 15—3 9—15

ユーバー杯組合せ決まる★決勝でインドネシアと宿命の対決か

18歳北田メンバーにはいり〝女王〟湯木はずされる

第9回世界女子バドミントン選手権（ユーバー杯）大会インターゾーンの組合せが別表のとおり決まった。

▼パン・アメリカン・ゾーンはペルー対アメリカが1回戦。この勝者とカナダが対戦するが、ウェンディ・カーターをはじめ、J・ヤングバーグ、ベテランのC・バックハウス、J・ファラドーらをそろえ、厚い層のカナダがインターゾーンに出場するのは確実。

▼アジア・ゾーンはマレーシアのみ出場のため、自動的にインターゾーンへ。

▼オーストラレイシア・ゾーンは、強豪インドネシアがエントリー、間違いなくインターゾーンへ出場となろう。

▼ヨーロッパ・ゾーンは今回も最激戦区である。1回戦シードとなっているデンマークとイングランドが代表をかけてぶつかり合う。

イングランド優勢の予想だが、当の英国協会はかなりの危機感を持っているようだ。

それはやはり、問題児ギリアン・ギルクスがチームに加わっていないことで、シングルスの柱が不在な点である。

ノラ・ペリーに大きな期待がかかってくるが、彼女は明らかにダブルス・プレーヤーであり、ジェーン・ウェブスター、カレン・ブリッジあたりではまだまだ信頼できない、というのが協会の本心であろう。

得意のダブルスで一挙に4ポイントをかせぎ、残る1ポイントをシングルスで、というのがイングランド勝利のパターンか。

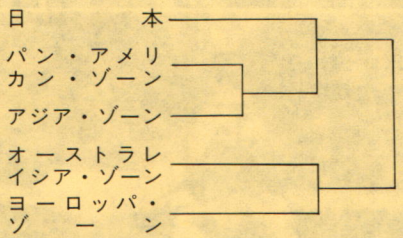
一方のデンマークは、〝女王〟リーン・コーペンと大型新人のキルステン・ラーセンのシングルスでポイントをかせがなくては勝ち目がない。

S・ペリ、P・ニールセンのペアはまだまだ実力不足。となるとダブルスの希望は、インゲ・ボルグストロム、アン・スコブガードのベテラン組が、がんばりをみせてポイントをあげることだろう。

いずれにしても、ヨーロッパ代表になるのは並たいていのことではない。

日本としては、インターゾーンでヨーロッパ・ゾーンの代表および、インドネシアとの連戦となる可能性もあったが、この両チームが、反対側のヤマに回るという好運のクジに恵まれ、決勝に焦点を合わせて調整し、しかも愛知で行なわれる準決勝で、じっくりと相手を観察することも可能となった。

第9回ユーバー杯大会組合せ



そして、11月25日に日本バドミントン協会は日本選手団を次のとおり発表した。

▽監督／小飼栄一（協会副理事長）▽コーチ／池田信孝（電電東京）

▽選手／近藤小織（24・河崎ラケット工業）徳田敦子（25・サントリー）高田幹子（25・サントリー）米倉よし子（22・電電東京）東海林文子（22・サントリー）北田スミ子（18・四条畷学園短大）▽補欠／大塚ソノエ（23・ヨネックススポーツ）高峯和子（18・熊本中央女子高）陣内貴美子（16・熊本中央女子高）

▼オールジャパン（全日本総合選手権）で、湯木、東海林、徳田、米倉を連破して優勝した北田がメンバーに加わったが、ベテランの湯木ははずされた。

また、大塚、高峯、陣内の三名は補欠という資格で発表されたが、ユーバー杯出場者は、試合の始まる48時間前までは変更が可能（48時間前に最終決定すればよい）である。

したがって、1月からのジャパン・オープン、デンマーク・オープン、全英選手権といったメジャー大会での成績をみて、さらにメンバーが変更されることもある。

とくに、北田のパートナーである富田美千代（四条畷学園短大）がメンバーにはいっていないことから、北田をダブルスにも起用する場合には、富田をもチームに入れるということも十分考えられる。

▼大会スケジュールと会場は、①1回戦／パン・アメリカン・ゾーン勝者×アジア・ゾーン勝者＝5月22日～23日・東京国立競技場代々木第二体育館

②準決勝／オーストラレイシア・ゾーン勝者×ヨーロッパ・ゾーン勝者＝5月23日～24日・愛知県体育館

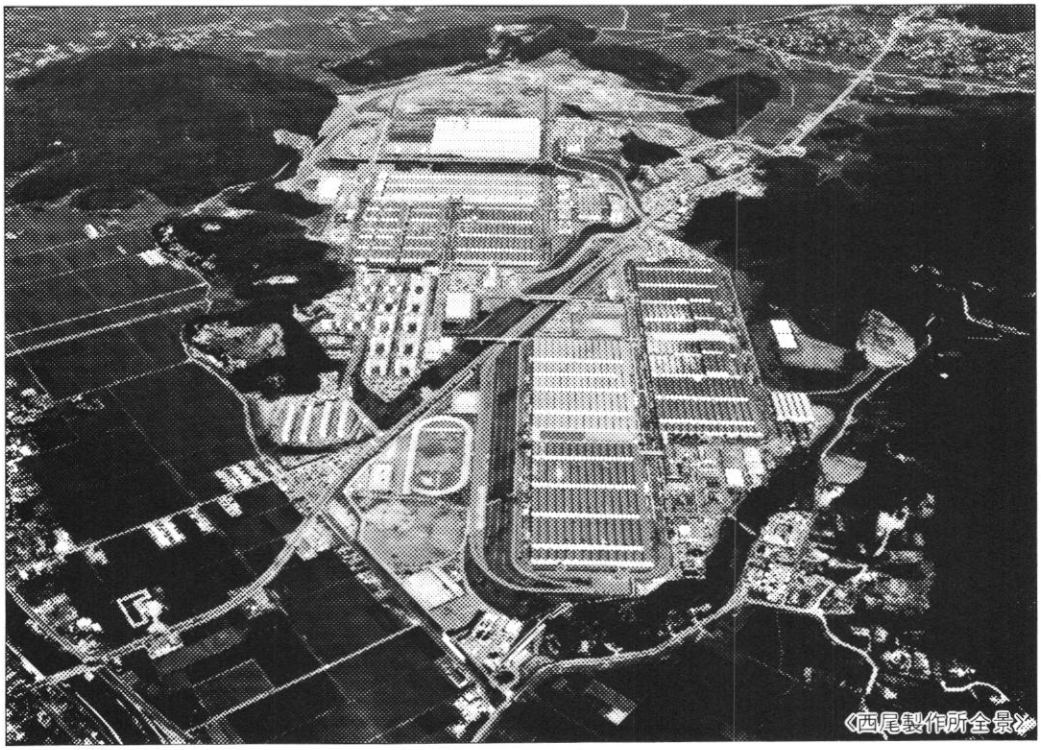
③準決勝／日本×1回戦勝者＝5月26日～27日・京都府立体育館

④決勝＝5月30日～31日・東京都体育館

※開始はいずれも午後3時を予定している。

自動車部品の総合メーカー

長年つみ重ねてきた、エレクトロニクスの技術を駆使して
自動車のエレクトロニクス化――――――
モートロニクスを進めるデンソー!!


《西尾製作所全景》

《営業品目》

- ●スターター
- ●オルタネーター
- ●ダイナモ
- ●レギュレーター
- ●イグニッションコイル
- ●ディストリビューター
- ●マグネトー
- ●ホーン
- ●ワイパー
- ●ウインドウォッシャー
- ●各種電子制御装置
- ●排気ガス浄化装置
- ●カーエアコン
- ●カークーラー
- ●カーヒーター
- ●燃料噴射ポンプ
- ●各種メーター
- ●ラジエーター
- ●スパークプラグ
- ●フィルター

日本電装株式会社

本社／愛知県刈谷市昭和町1－1　（〒448）　TEL 刈谷(0566)22－3311

昭和55年度関東学生秋季リーグ戦は、10月1日から板橋区立体育館、大田区立体育館を舞台にくり広げられた。

男子1部に大東文化大学、女子1部に専修大学を迎えてのリーグ戦だったが、男子1部は中央大学が、女子1部は日本体育大学が、そして男子2部では明治大学、女子2部は春季リーグ戦後2部に昇格した筑波大学が旋風を巻き起こして優勝した。

◆男子1部

▽第1日

中　大　5（S3—1 D2—1）2　早　大

法　大　5（S3—1 D2—1）2　日　大

日体大　7（S4—0 D3—0）0　大東大

⊙連覇で22回目の優勝をねらう中央大学は上原、西山、宮本の主力が快調で、まずは上々のスタート。

一部昇格ではりきる大東文化大学の闘いぶりが注目されたが、日体大の実力は一枚上で、完封負けを喫した。

▽第2日

中　大　7（S4—0 D3—0）0　大東大

昭和55年度関東学生秋季リーグ戦

中大，春秋連続で22回目の優勝

キャプテン上原，エース欠場に燃える

藤井，学生最後のシーズンを8戦全勝で飾る

日体大7期連続・16回目の栄冠

法　大　4（S1—3 D3—0）3　早　大

日体大　5（S3—1 D2—1）2　日　大

⊙大東大はこの日も中大のカベに泣いた。中大は宮本が小林に対し、第1ゲーム11ポイントを許しただけで、他の6試合はすべて1ケタ失点のストレート勝ちだった。

法大は早大に対し、ダブルスで一気にケリをつけ、〝ダブルスの法政〟の伝統をみせつけた。

▽第3日

中　大　5（S3—1 D2—1）2　日　大

上	原	2	15	15	7									
			10	7	0									
						秋	月							
須	貝	0	12	6										
			15	15	2									
						上	田							
宮	本	2	15	15										
吉	村	2	15	5	12									
						0	伊	藤						
							勝	木						
上	原	2	15	18										
細	谷	2	10	17	0									
						0	六	川						
							見	城						
千	葉	1												
須	貝	15	15	4	15									
		18	10	15	2									
						稲	垣							
						上	田							
宮	本	2												
		15	15											
		5	5	0										
					青	木								
細	谷	2												
		15	15											
		7	5											
		0												
		MC	（稲垣）											
		沢	口											

⊙中大はエース西山が体調をくずしこの日から欠場という最大のピンチを招いた。

中大ベンチは2年生の細谷昇（日大高出）を起用し、主将上原とコンビを組ませた。オーダーを見ると、最終シングルスで日大主将の稲垣と細谷が対戦することになり、カギを握るのはこの一戦と第2ダブルスの上原・細谷×六川・見城であった。

上原は巧みに細谷をリードし、日大ペアを追いつめ、細谷もケレン味のないプレーで期待にこたえた。

日体大　5（S3—1 D2—1）2　法　大

北	橋	0	12	11										
			15	15	2									
						久	郷							
権	藤	2	15	15										
			4	6	0									
						貴	田							
鎌	田	2												
坂	井	2	15	18										
			10	15	0									
						楠	丹	藤						
							美	子						
山	下	0	2	13										
本	郷	0	15	15	2									
						久	郷							
北	橋	2	18	15										
山	本	2	13	7	0									
						貴	田							
						岡	野							
坂	井	2												
		15	1	15										
		12	15	5	1									
					丹	藤								
関	根	2												
		15	15	14										
		11	2	18	1									
					本	石								

⊙春2位の法大対3位の日体大、ともに闘志をはっきりとむきだ

しての試合。

北橋が第1シングルスで敗れたが、つづく権藤が同じく1年の貴田を破って波に乗り、坂井が相変らず荒いプレーながら、ファイナルゲームで丹藤を降して浮上した。

早　大　6（S3—1 D3—0）1　大東大

▽第4日

中　大　5（S3—1 D2—1）2　日体大

上　原　2　15—0　17—14　0　北　橋

須　貝　2　15—8　15—7　10—15　1　権　藤

上　原　2　15—9　0　鎌　田

細　谷　2　15—10　0　坂　井

宮　本　2　15—13　15—12　0　権　藤

吉　村　2　15—7　7—15　1　北　橋

千　葉　0　11—15　2　山　本

須　貝　0　15—7　4　0　関　根

宮　本　2　3—15　16—17　2　坂　井

細　谷　0

⊙この日も〝西山抜き〟の試合を強いられる中大に対し、法大を倒して意気上がる日体大。

中大は第1、第2ダブルスを入れ替えただけで前日とほぼ同じオーダー。一方の日体大はダブルスに権藤・石場の1年生ペアを起用した。権藤の〝勢い〟に賭けたというところか。

しかし、中大は須貝が2年生の意地をみせて権藤に逆転勝ちし、ダブルスでも上原・細谷が相手のエースペア、鎌田・坂井を圧倒するなど、一気に4—0で勝負を決めた。

西山を欠いたということでチームが一丸となり、まさに〝団体戦に強い中大〟の面目躍如の一戦だった。

▽第5日（最終日）

法　大　5（S2—2 D3—0）2　大東大

日　大　4（S2—2 D2—1）3　早　大

中　大　4（S2—0 D2—1）1　法　大

日体大　4（S2—0 D2—0）0　早　大

日　大　4（S2—0 D2—0）0　大東大

⊙中大はこの日ついに上原・細谷組に土がついたものの、それぞれが自分の役割を完全に果たし、春秋連続の22回目の優勝を手にした。2位には日体大が4シーズンぶりに入り、以下3位法大、4位日大、5位早大、6位大東大となった。

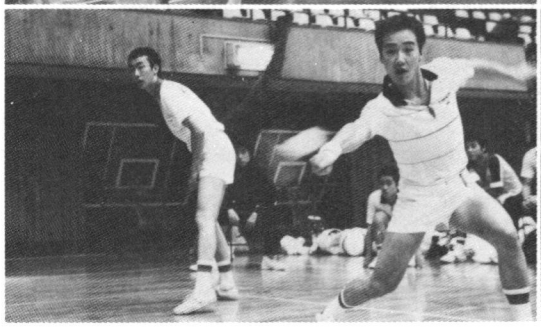
なお本誌が贈る〝ガッツ&フェアープレー賞〟には中大主将の上原明（4年高松商業出。今季シングルス5勝、ダブルス4勝1敗）が選ばれた。



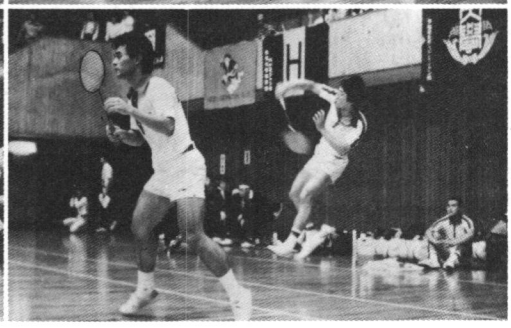
久郷・本石（法大）



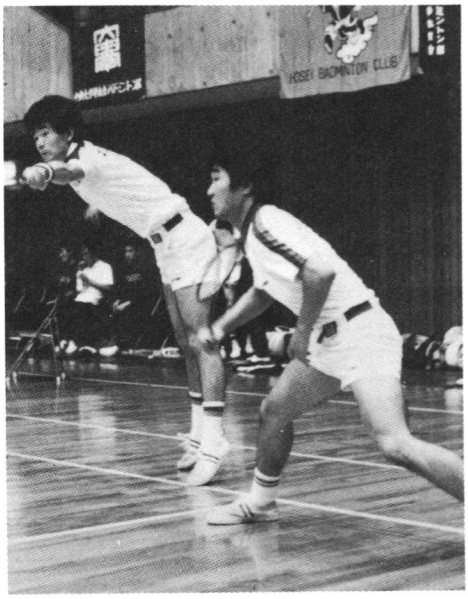
宮本・吉村（中大）



六川・見城（日大）



北橋・山本（日体大）



丹藤・楠美（法大）



青木・山下（日女体）



高橋・平野（早大）



小野・高峯（日女体）



藤井・枝（日体大）



上田（日大）



坂井（日体大）



上原（中大）

◆女子1部

▽第1日

日体大 4（S 2—1, D 2—0）1 青学大

東女体 5（S 3—0, D 2—0, D 2—0）0 大妻大

日女体 5（S 3—0, D 2—0, D 2—0）0 専　大

▽第2日

日体大 5（S 3—0, D 2—0）0 専　大

東女体 3（S 1—2, D 2—0）2 青学大

南　雲 0（5—3—11）2 大　内

川　島 1（3—10—11—11—12—9）2 彼　島

浜　田 2（15—10）0 松　本

清　藤 2（15—11）0 山　菅

柴　田 2（15—15）0 大　内

川　島 2（15—11）0 彼　島

浜　田 2（11—11—2—7）0 山　菅

⊙青学大トップシングルス大内は、すばやい動きで南雲をかく乱し、つづく彼島は第2ゲームをセッティングで奪ってタイに追いつくと、第3ゲームは一方的に押しまくり、2—0とリード。東女体をヒヤリとさせた。

しかし、後続がなく終ってみれば、青学大得意の〝あわや〟で幕。

日女体 4（S 2—1, D 2—0）1 大妻大

▽第3日

日女体 3（S 2—1, D 1—1）2 東女体

小　野 2（11—11—1—4—1）0 川　島

大　野 2（11—11—3—4—7—11）1 浜　田

小　野 2（15—7—15—11—10—15）1 柴　田

高　峯 2

皿　井 0（10—15—8—15）2 土　田

長　尾 0

青　木 0（3—11—6—11）2 南　雲

⊙東女体にとっては、考えも及ばなかったストレート負けであった。つまずきは第1シングルスの川島である。スロースターターで出足ミスの多い川島だが、この日はとくに出来が悪く、なすすべなく小野に完敗。この小野に刺激されたのか新人の大野（帝塚山高出）も、浜田に先行されたが、ねばり強く追い上げ、第2、第3ゲームを連取。

ダブルス小野・高峯も同じように先行されながら、シングルスの後遺症の残る川島の不調につけ込み、3—0で2位浮上を


彼島・大内（青学大）


土田・笠松（東女体）


山本・白松（筑波大）


浜田・清藤（東女体）

決めた。

決して器用ではないが、ひたむきなプレーとガッツで将来を期待される川島だが、最近の伸び悩みが気になる。

青学大5（S3—0 D2—0）0専　大

▽第4日

日体大4（S2—1 D2—0）1日女体

東女体5（S3—0 D2—0）0専　大

青学大5（S3—0 D2—0）0大妻大

▽第5日（最終日）

日体大3（S2—0 D1—0）0東女体

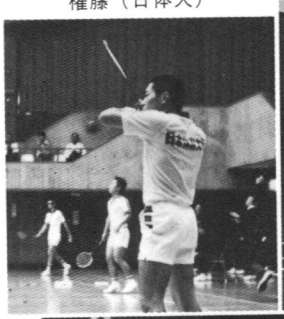
日女体3（S1—1 D2—0）1青学大

大妻大3（S2—1 D1—1）2専　大

⊙日体大は藤井、枝、徳永、松枝の4年生が安定しているうえに、2年生の田村もがんばり、まったく危げなく7季連続で16回目の優勝をとげた。

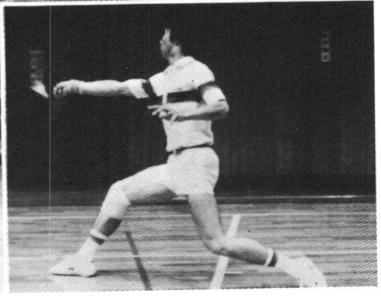
2位には東女体を破った日女体が4シーズンぶり、以下東女体、青学大、大妻大、専大の順となった。青学大は今季もあと1ポイントが奪えず、じつに18季連続の4位となったのである。

ガッツ&フェアープレー賞はシングルス4勝、ダブルス4勝で土つかずの8戦全勝、学生最後のリーグ戦で主将の任をみごとに果たした日体大の藤井良子（青陵高出）が受賞した。


権藤（日体大）


長谷川・高階（明大）


田村（日体大）


西山（中大）

なお2部リーグは、男子が明治大学、女子は筑波大学が優勝した。

明大は長谷川、高階の4年生コンビと、2年生の加藤博（松陽高出）が活躍し、筑波大は山本、白松が単複に全勝し、ついに2部優勝を果たし、念願の1部へあと一歩と迫った。

ガッツ&フェアープレー賞は加藤、山本の両選手が受賞し、リーグ優勝に花を添えた。

いよいよ開幕　第2回日本リーグ

その展望（女子の部）

サントリーの堅城くずすのはどこか

11月号で男子の部の展望をお届けしましたが、いよいよ試合も11月30日から始まりました。急きょ女子の部をご紹介します。

全体をみると、最も充実しているサントリーに対して、対抗の河崎ラケット、ヨネックススポーツがどのようにその進撃を阻むか、が見どころです。

そして新加入の三洋電機がどんな試合ぶりを見せるか、なんとしても1勝を、とがんばってトレーニングにはげむ日本電装はどの程度その成果を見せるかも興味がもたれます。

それでは順に各チームを追ってみたい。

1 サントリー

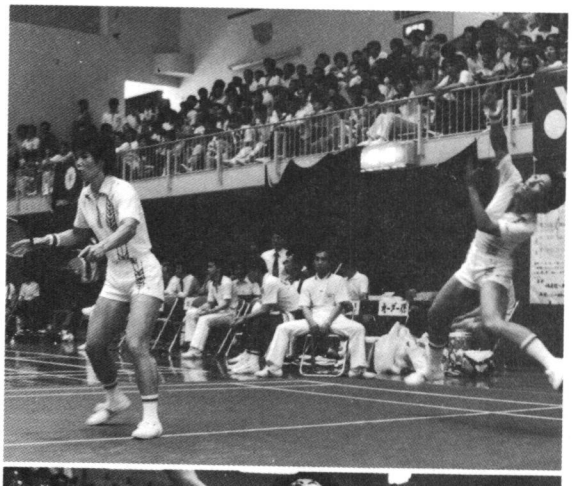
部長／斎藤良美
監督／山本次生
選手／㊐徳田敦子、高田幹子、谷美津子、原口恵子、東海林文子、横山ナルミ、葛西明子、西村美千代、岩見洋子、磯野恵理子、国奥美智代、菊池洋子

★昨年の日本リーグ優勝、全日本実業団大会ではじつに5連覇という実績が示すように、チーム力は断然トップ。

戦列を去った秋本の分を、原口と東海林で余りあるカバーをした。

選手層の厚いことはいうまでもないが、日本リーグの場合は2複1単となるため、オーダーをどのようにするかが、かえってむずかしいところ。

徳田・高田、谷・東海林といった強いペアをもっていくか、あるいは東海林、原口、徳田あたりをシングルスに回すか、いずれにしてもベンチワークが非常に大きな比重を占めているのは確かである。



谷・東海林（サントリー）



関根・大塚（ヨネックス）

②ヨネックススポーツ

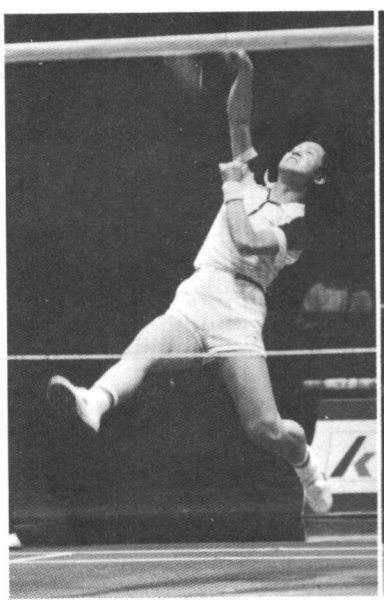
部長／土田隆
監督／栂野尾悦子
選手／㊦飯野裕子、栂野尾悦子、土田美加、関根和子、大塚ソノエ、石田ひとみ、仲田浩子、高野和代、増田啓子
★メンバーを見てわかるとおり、名ダブルスプレーヤーで固めたというチームである。栂野尾、土田、飯野のミセストリオは、ダブルスにおいては、依然としてすばらしいものを見せてくれる。加えて関根・大塚のペアもコンビネーションさえ狂わなければ実力十分である。歯車が狂うと思わぬモロさをみせてしまうのが最大の不安。

そして問題はシングルスである。石田が学生チャンピオン時代のはつらつとしたプレーぶりを見せることができるかどうかがカギ。

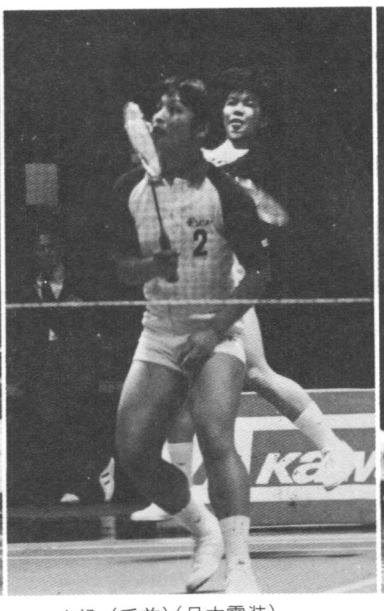
〔抱負〕第1回大会ではサントリー戦において不覚をとり、惜しくも優勝を逃しました。

今年は石田、仲田、高野らの新人を加え、チームは一段と若返り、全員が日本リーグ出場の座をかけてしのぎを削っており、練習はきびしいものがあります。

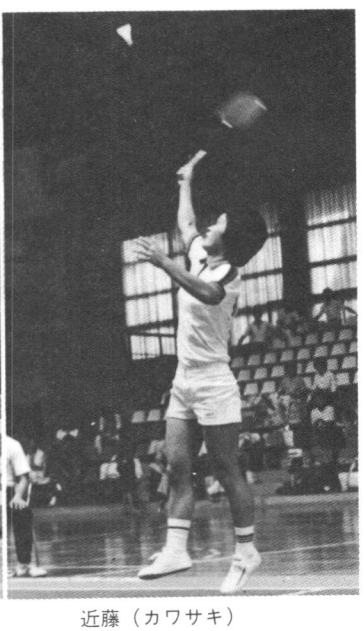
第2回大会は男女アベック優勝をめざしてがんばります。



月岡（全日本学生）



小松（手前）（日本電装）



近藤（カワサキ）

③河崎ラケット工業

部長／堺栄一
監督／湯木博恵
選手／㊦湯木博恵、端洋護、近藤小織、渡辺多喜子、沢内真由美、高岸陽子、渡来たか子
★全日本実業団大会優勝の湯木、社会人大会を制した近藤のシングルスは健在だが、リーグ戦は2複1単であるため、どちらかをダブルスに回すことになる。

サントリーの強力ダブルス、ヨネックスの巧者ダブルスから1ポイントをあげなくては勝つことはおぼつかないわけだから、いかにしてオーダーを組むか、このチームもまたベンチワークがむずかしい。

端（旧姓千葉陽子）は相変らずうまいプレー、頭脳的配球ができるので、新人高岸あたりが当たりを出せば大いに期待できる。また渡辺・沢内のペアも地味ながらあなどりがたいものをもっている。

④日本電装

部長／野畑亘
監督／藤江至
選手／㊦皆川詔子、小松澄子、水谷昌代、加塩淳子、片山りつ子、畑原博美、吉田東美江
★昨年は勝ち点こそあげられなかったが、とにかく1ポイントでも多く取ろうというひたむきなバドミントンに徹し、そのために戦うごとに進歩が見られた。

今年は新人を4名補強し、全日本実業団でベスト8入りを果たしている。

いうまでもなく団体戦では、そのチームのまとまりによって予期以上の力を発揮することがあり、そのあたりに期待したい。

〔抱負〕わが日本電装バドミントン部は毎日3時間の練習を行ない、日本リーグ一勝必達を目標にがんばっております。

メンバーも新たに4名加わり年齢的にもフレッシュで、一段とパワーとねばりをつけ、ひとまわり大きくなったチームです。

今年はマナーの良さにとどまらず、勝負にきびしいチームに脱皮しなければと、チーム全員心をひきしめています。

〝人と人とのぶつかりあい〟真正面からぶつかるのみ、の意気込みで一戦一戦をデンソーガッツで戦い抜きたいと思います。

⑤三洋電機

部長／中井健三
監督／月原朗
選手／㊦川崎知子、久米恵美、河村茂美、平久美子、植田日出

子、沼田晴代

★昨年学生ダブルスチャンピオンの河村・平を軸とする新加入チーム。高校出の植田も実力をそなえてきているが、やはりコマ不足はいなめない。

河村・平のダブルスが相当充実しているだけに、もう一、二名のシングルスプレーヤーがほしいところである。

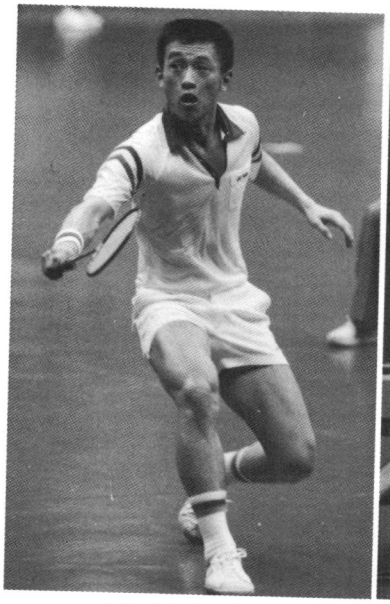
しかし、こういった若いチームは波に乗ると手がつけられないこともあり、また試合をするたびにうまくなる、ということが考えられるので、日本リーグに新風を吹き込んでくれるのは間違いないだろう。

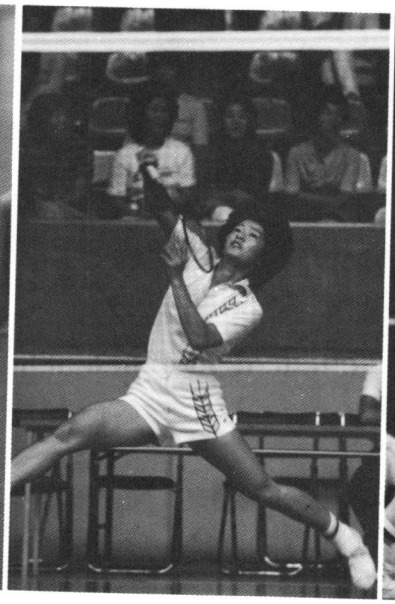
⑥全日本学生

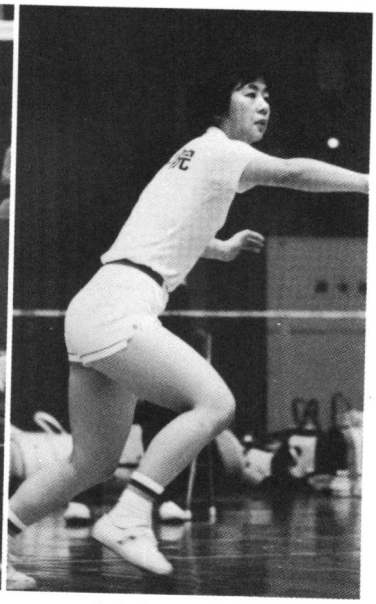
部長／星野寛一（日体大④）
監督／佐藤秀夫（新潟青陵短大監督）
選手／㊦月岡広美（新潟青陵短大②）彼島佳子（青学大③）小野順子（日女体大②）高峯彰子（日女体大②）田村圭香（日体大②）野口英代（日体大①）高鴨芳香（日体大①）

★この夏インドネシアへ遠征したメンバーを中心に、インカレベスト4の月岡、彼島が主力となる。インカレ三冠王の北田は、今年のオールジャパンも制し、ついに日本の頂点に立ったが、残念ながらパートナーの富田とともにメンバーにははいっていない。

田村・高鴨（インカレ2位）と小野・高峯（同ベスト4）をダブルスに起用し、月岡あるいは彼島がシングルスという布陣と思われるが、即成チームとはいえ、個々にはいつもペアを組んでいるため、ひと暴れが期待できそうである。


上原（全日本学生）


原口（サントリー）


彼島（全日本学生）

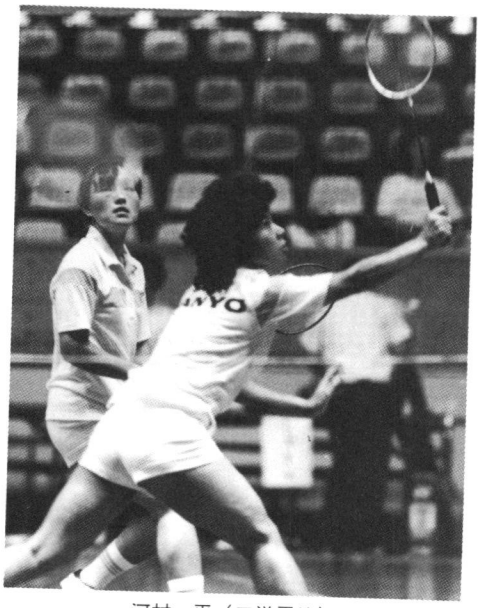
なお前月号ではお知らせできなかった全日本学生男子が次のように決まりました。

全日本学生男子

部長／星野寛一（日体大④）
監督／杉山和彦（中大監督）
選手／㊦上原明（中大④）西山博司（中大③）宮本幸弘（中大③）坂井茂則（日体大③）久郷俊明（法大③）須貝英徳（中大②）権藤浩二（日体大①）

★4年生ながら主将として加わった上原はインカレ三冠王。西山も最近体調をくずしていたが、ようやく上向きとなり、オールジャパンではベスト8に入った。しぶとい宮本、久郷、波に乗れば恐い存在の坂井、須貝、そして1年生ではあるがものおじしないコート度胸とガッツで活躍が期待される権藤と、多士斎々である。

女子同様、上位も望める。


河村・平（三洋電機）

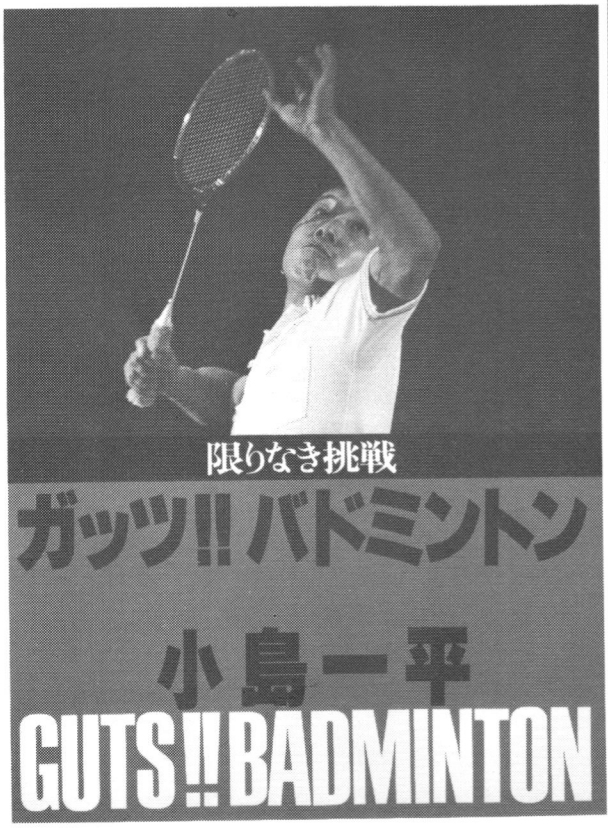
出版案内

バドミントン界編集部

お申込みは巻末とじ込みの振替用紙で、お近くの郵便局からどうぞ

ガッツ・バドミントン

オールジャパン男子シングルスでＶ８をなしとげた日本最強の〝ガッツ〟小島が、そのすべてをさらけ出した書。日本図書館協会選定図書――!!



限りなき挑戦

小島一平著

勝利へのガイドブック!!

好評発売中!!

菊倍判（225ミリ×295ミリ）

定価2000円（送料350円）

〈本書の内容〉

第Ⅰ部　体当たり半生記

１バドミントンとの出会い／２トップ・プレーヤーと接する／３オールジャパンを制す／４限りなき挑戦

第Ⅱ部　実戦アドバイス

１方法よりも意欲だ／２体力づくりに近道はない／３より速く、より高く、より前で

第Ⅲ部　わがライバルたち

１日本最高のシングルス・プレーヤー（秋山真男）／２団体戦に燃えた男（本間順次）／３夢ではない〝世界一〟（銭谷欽治）／４もの静かな全英チャンピオン（タン・アイク・ハン）／５デンマークの暴れん坊（スヴェン・プリ）／６史上最強の天才プレーヤー（ルディ・ハルトノ）

第Ⅳ部　主要大会記録・ルール

トマス杯大会／ユーバー杯大会／全英選手権大会／デンマーク・オープン大会／世界選手権大会／全日本総合選手権大会／競技規則／審判用語

★連続写真：小島一平、銭谷欽治、中井基夫、長谷川博幸、西山博司による11フォームを収録!!

★著者紹介★

小島一平（コジマ　イッペイ）は、神奈川県立緑ケ丘高校、中央大学卒。高校時代はインターハイ・シングルス2位だったが、大学に入ってからメキメキ実力をつけ、昭和41年から昭和50年の間に、オールジャパン・シングルス優勝８回、同ダブルス優勝４回という、わが国最高の記録を残している。全英選手権でも単複３位のほか、デンマーク・オープンでは単複に優勝している。

ヨネックススポーツを経て、現在はラケットショップ元町常務取締役。

『審判員心得』第29条「線審はその担当のラインにつき，全面的に責任を持つシャトルがライン外に落ちた場合は，どんなに遠く出たときでも，直ちに，プレーヤーと観衆に聞こえるように大声に，明瞭な声で「アウト」とコールし，同時に，主審にはっきり見えるように両方の手指をそろえ，両腕を肩の高さで水平に開き，手の平を前方に向けてサインする。シャトルが中に落ちた場合は，何もいわないで，片方の腕をその手指をそろえ斜め下方にのばす。見えなかった場合には直ちに主審にその旨報告する」

lob　ロブ。高く深く相手の頭越しに打ち上げ，バック・バウンダリ・ラインいっぱいに落とす球。本来テニス用語で，バドミントンではクリアというのがふつうだが，クリアの代わりに，このロブという言葉を使う人も少なくない。なお，ロング・ハイ・サービスのことをlob serviceということもある。

long high service　ロング・ハイ・サービス。クリアのように高く深く打つサービスの１種。主としてシングルスで用いる。最近の英語ではhigh serviceまたはlong serviceと簡単にいい，long high serviceとていねいいい方をすることは少ない。

long service line　ロング・サービス・ライン。サービスコートの後方の境界線。ネットに平行に，右のサイドラインから左のサイドラインまで通して引かれている。サービス・コートはシングルスとダブルスではサイズが違うため，ロング・サービスラインも２本ある。シングルス用ロング・サービス・ラインはバックライン（コート最後尾の線）を兼ね，ダブルスのロング・サービス・ラインは，それより76cm前方（ネット寄り）に引かれる。

love-all　ラブ・オール。loveは「愛」だが，テニス用語で数字の０「ゼロ」のこと。これをバドミントンが借用した。ゼロをなぜラブと呼ぶかについては確証がないが，テニスが生れた国のフランス語のl'œuf（ルフ）がナマったとする説が有力。l'œufはタマゴで，タマゴの形が０に似ているからである。

ラブ・オールは０－０のことで，バドミントンでは主審が「love all, play（ラブ・オール・プレイ）」とコールしたあと，サーブが行われて試合が始まる。この場合のallは「すべて」ではなくて「双方ともに」の意味。

lunge　ランジ。本来はフェンシング用語。相手に突きを入れるために片足を前へ大きく踏み出し，上半身を前斜させる動作をいう。この語は動詞で，そのような動作を示す名詞はlunging（ランジング）。バドミントンでは前陣に落下して来た低い球を処理するとき，この動作が必要になる。

（Lの項・完）

Mの項

manager　マネージャー。日本で誤って用いられている代表的な言葉。英語でマネージャーは組織，団体の管理，経営，指揮にあたる責任ある地位の人をいい，スポーツのチームでは「監督」に相当する。日本語でいう「マネージャー」はチームの世話係，雑用係のことだから“team's caretaker”（ケアテーカー）あたりが適当な英語訳。

ただし，日本語の「監督」に相当するのが「マネージャー」ではなく「ヘッドコーチ」（head coach）の場合もある。プロ・テニスの国際選手組織では，遠征先に選手に帯同するツアー・ディレクター（tour director）がいるが，これは日本語のマネージャーに近い役柄。

match　マッチ。①バドミントン，テニス，卓球，バレーボールなど，ゲーム，またはセットを先に２つまたは３つ取ると勝負が決まる方式の，競技の１対戦（試合）のこと。バドミントンではポイントが集ってゲームを構成し，ゲームが集ってマッチとなる。しかし，一般的表現として「バドミントンの試合は面白い」などいうとき「試合」に相当するのはmatchではなく“a badminton game”のようにgameを使うので，話がややこしい。

②では，一般に「……の試合」というとき，この「試合」に当たる言葉にmatchを使うのは，どんな競技か。これはWebster's Sports Dictionaryによると「ラグビー，サッカー，フェンシング，射撃，格闘技類」である。つまり「ラグビーの試合」は“a Rugby match”という。

ただし，格闘技（ボクシング，レスリング，柔道，空手など）は１対１の対戦なので“boat”（バウト＝取組）ともいう。

マッチは火をつける道具のマッチと同じ綴りだが，語源は全く別。火つけ道具の方は，ギリシャ語で「ランプの筒口」から生まれた語だが，試合のマッチは古い英語のmate（メート，クラスメートなどと使う）から変化したもので「友だち」が原義。ここから「１対の片方の人」すなわち，好敵手，釣り合い，縁組，似合い，などの意味に発展した。

ついでながら，matchmaker（マッチメーカー）は火つけ道具の製造者ではなく，①結婚の仲人か②スポーツ興業の勧進元，かいずれかのことである。

㊀ game

match point　マッチポイント。ゲーム，またはセットが集ってマッチを構成している競技において，その１点をとれば，とった方の勝利が決まる，その最後のポイント。

㊀ game point

（Mの項・つづく）

バドミントンの用語ABC

後藤忠弘／編

Lの項つづき

left-handed　レフト・ハンデッド。　ぎっちょ（左利き）のこと。右利きならright-handedである。この場合のhandedは「手を使う」意味の形容詞。「左利きの人」はleft-handerという。なお，left-handは「左手の」「左側の」の意味だからleft-handedと混同してはいけない。

左利きは少数派のせいか，この語には，ほかに「疑わしい，誠意のない，無器用な」など，ありがたくない意味がある。

アメリカでは左利きのことをsouthpaw（サウスポー）ともいうが，これはSouth（南部諸州）とpaw（動物の手，足）を結びつけた言葉。大リーグの野球で，むかし南部には左利きが多かったから，というが，当てにはならない。

leg　レッグ。　脚（あし）のことだが，スポーツ競技ではサーキットのようにシリーズを成す催しの一つ一つの大会（たとえば5都市をめぐる国際イベントの，東京大会，札幌大会などのように）をいう。また，リレーで各走者がカバーする分担距離をも意味する。たとえば“The first leg of a series of five.”といえば5戦シリーズの第1戦のことになる。

legの代わりにstop（ストップ）が使われることがある。これは滞在，停車ということで，「きょうは大阪泊り」などといういい方と同じである。

let　レット。　スポーツでは“any play that is voided and must be replayed.”（The Randam House Dictionary）で，すなわち「無効として，やり直しをさせるプレー」のこと。中学の初めに習う“let's go”のlet（～に～させる，許す）と同じ言葉である。

バドミントンでは，予期しない偶発的なことが発生し，プレーの進行を妨げた場合，主審がレットを宣告する。レットになるとプレーはいったん停止となり，そのときのサービスからやり直す。レットになる主な場合は

①サーバーがコートまたは順序を間違えた

②レシーバーが順序を間違えた

（ただし，①②の場合とも，次のサービスが打たれる前にその誤りが発見されたときに限る）

③シャトルがネットを越えた後，ネットに乗ったり，ネットの網目等にひっかかった

④双方のプレーヤーが同時に反則した（サービスでフットフォルトとラインクロスが同時発生した場合など）

⑤不可抗力の事態の発生（隣接コートのシャトルが飛び込んで来た，スタンドからものが投げられた，停電した，など）

line　ライン。　コート（試合場）と他を区別し，コート内の各部分を区別し，明示するための線。ラインの色は地面（フロア）とまぎらわしくなければ何色でもよく（注・競技規則第1条第1項「……ラインは……白，黒または見分け易い色ではっきりと引く」）幅は4㎝。ラインの幅はすべてコート・サイズの内に含まれているので，線上に落ちたシャトルは「イン」（有効打）である。

line call　ライン・コール。　線審が自分の受け持ちラインをジャッジし，シャトルが「アウト」（線外に出た無効打）のときに行うコール（宣告）のこと。

☞ linesman

line cross　ライン・クロス。　サービスまたはレシーブで，サーバーまたはレシーバーの足が所定のサービス・コートの四周のいずれかの線に触れるか，踏むか，越しているかの状態。競技規則第14条3項及び第16条の定めにより，フォルトとなる。

しかし，英語ではＩＢＦ競技規則はもちろん，スポーツ用語辞典，英々辞典，バドミントン指導書等にも，筆者の知る限りは“line cross”という単語はない。これが，もし「ラインを踏んでいる」という意味なら，英語としては“crossing the line”か“touching the line”というのが正しいように思われる。line crossはどうやら和製英語の疑いが濃い。

linesman　ラインズマン。　線審と訳す。2人以上ならもちろんlinesmenとなる。女性の線審はとくにlineswomanということもある。線審の役目と権限は，次のように規定されている。

『大会運営規定』第28条「線審は自己の受け持ちのラインにのみ関して，シャトルの落下点がインかアウトかを主審に明りょうに示す義務がある。そしてその判定は最終のものである。この決定に関しては競技者の抗議は許されないし，また主審の見解をいれることも許されない」

リム・スイ・キンが、ハルトノが来る!!
迎え撃つ長谷川、銭谷、飯野、土田…



海外の強豪約30名が来日

1月23日・24日・25日 東京で

79年、80年と2回にわたって開かれたワールドカップ（ワールド・チャンピオンズ・カップ・トーナメント）を発展的に解消し、「ジャパン・オープン」の第1回が1月に開催されます。

正式名称を「ジャパン・オープン'81・バドミントン・チャンピオンシップス」といい、国際バドミントン連盟（IBF）の公認を受けたものです。

現時点での内容は次のとおりです。

▼ジャパン・オープン'81

▽会場
東京国立競技場代々木第二体育館

▽日程
昭和56年1月23日(金)～25日(日)

▽時間
23日は正午から、24日、25日は午前10時30分から

▽種目
男女シングルス、男女ダブルスの4種目

▽海外招待選手
各国のトップクラス男女約30名を招待

▽入場料
SS席＝4000円
S席＝2500円（前売りは2200円）
一般席＝1800円（前売りは1500円、23日は当日券のみで1000円）
高校生＝1000円（前売りは800円）
中学生＝500円

▽主催
日本バドミントン協会

▽協賛
ヨネックススポーツ株式会社

▽後援
読売新聞社、報知新聞社

★ワールドカップを上回る内容が予想されますので、お誘い合せのうえ、ぜひご来場ください。

今後の詳しい内容等については、左記あておたずねください。

▼日本バドミントン協会
東京都渋谷区神南1－1－1
電話03－467－3111(代)

編集室から

▼オールジャパンでは長谷川博幸、北田スミ子の新しいチャンピオンが誕生しました。とくに北田選手の登場は、ユーバー杯防衛戦に向けて、非常に明るいニュースです。長谷川選手も〝常勝〟銭谷選手をストレートで降しての優勝だけに自信をもったことでしょう。この優勝がフロックでないことを証明するためにも、これからも今まで以上の努力を期待したいものです。

▼〝羽根打ちサービス〟禁止はどうやら避けられない見通しですが、来年5月28日のIBF東京総会で否決されれば、この問題もふり出しに戻ることになり、成行きが注目されます。プレーヤーに直結するテーマだけに、本誌としても継続して動向を追跡します。読者の皆様も積極的にご意見をお寄せください。

▼海外からもニュースが続々届いていますので、順次誌上でお知らせいたします。

▼次号では日本リーグ初戦のもよう、オールジャパン詳報などを中心にお届けいたします。

バドミントン界　The Badminton World

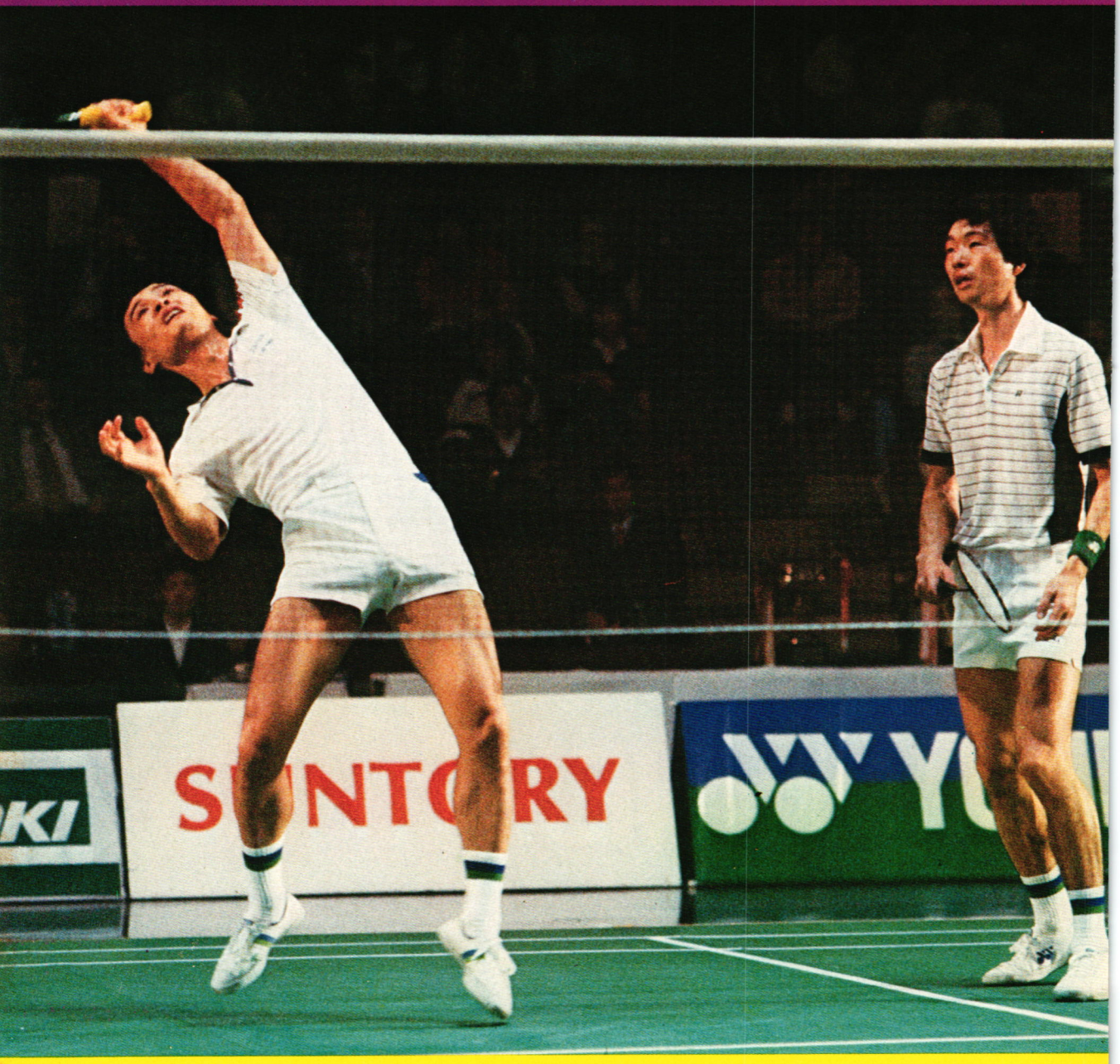
1980年12月号　©1980年　通巻第134号

写真植字／サカキバラ写植
印刷・製本／根岸印刷

◇本誌の記事・写真等を許可なく転載・複写することを禁じます

定価＝300円　1年間予約購読料＝3000円（送料共）
振替＝東京8－10737

昭和55年12月15日発行
編集兼発行人／赤星三樹
発行所／赤星出版株式会社
東京都目黒区鷹番2－8－22－205　〒152
☎03－712－6952



男子ダブルスは飯野・土田対辻・長谷川の若い対決となり，ドライブの応酬，羽根打ちサービスからの2段攻撃，固いレシーブと，バドミントンの醍醐味をみせつけた。

2年ぶりのタイトル奪還に燃える飯野・土田は，シングルスに続きダブルスもと勢いに乗る辻・長谷川に対し，つねに攻撃に徹し，力でねじふせるのに成功した。

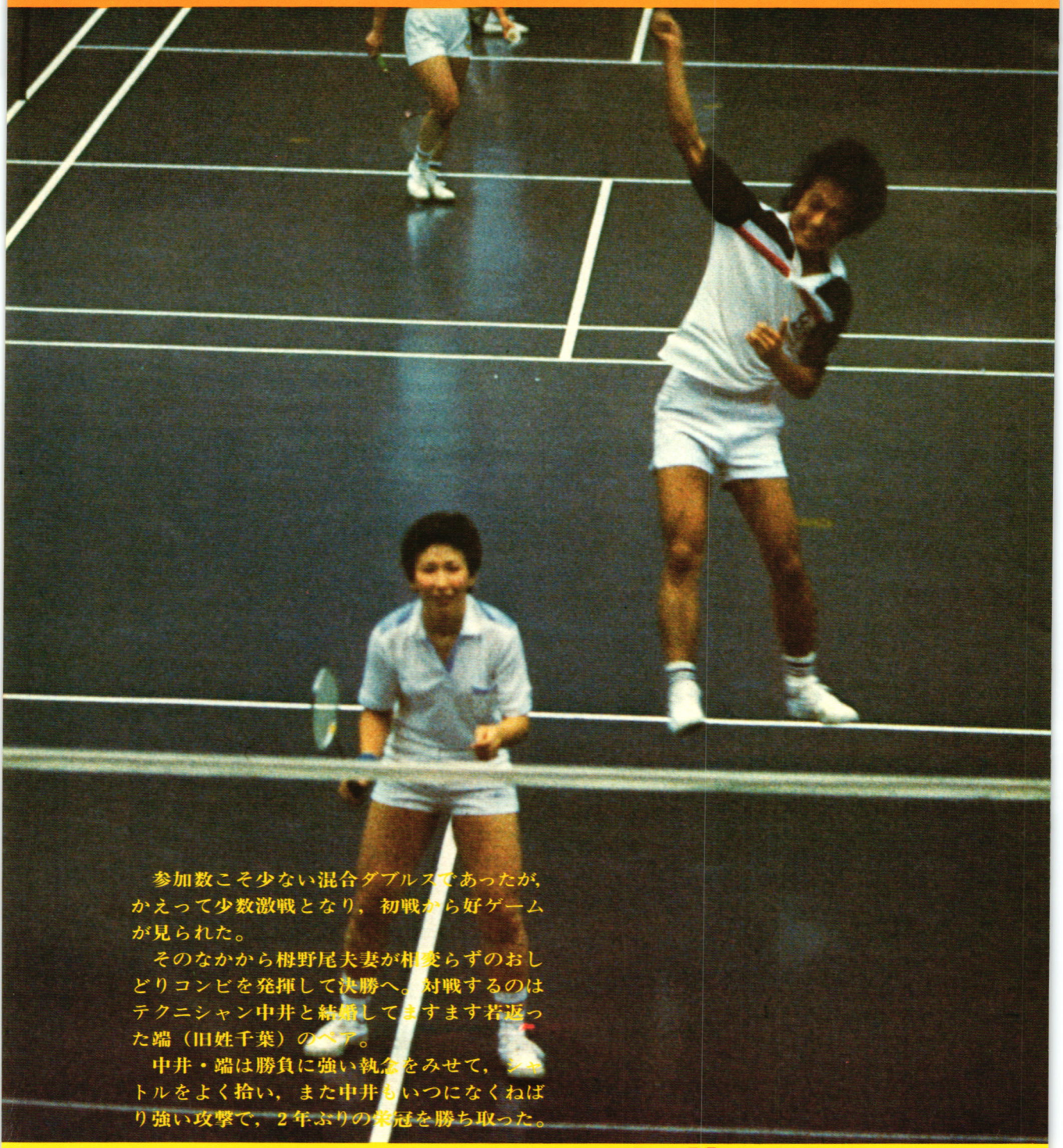
2年ぶりの栄冠飯野・土田

ユ杯防衛へ米倉・徳田快調



ユーバー杯防衛へ向けて，その戦いぶりが注目された女子ダブルスは，マスターズ・トーナメントに優勝した米倉・徳田が他をよせつけなかった。

若い北田・冨田の攻撃力もはね返され，決勝の近藤・高田は劣勢な展開に加え，高田が足を痛めるというアクシデントにも見舞われ，米倉・徳田は昨年につづき連覇を果たした。



参加数こそ少ない混合ダブルスであったが，かえって少数激戦となり，初戦から好ゲームが見られた。

そのなかから梱野尾夫妻が相変らずのおしどりコンビを発揮して決勝へ。対戦するのはテクニシャン中井と結婚してますます若返った端（旧姓千葉）のペア。

中井・端は勝負に強い執念をみせて，シャトルをよく拾い，また中井もいつになくねばり強い攻撃で，2年ぶりの栄冠を勝ち取った。

逆転で2年ぶりの中井・端

81年版カレンダーをどうぞ

すっかりおなじみになりました「バドミントン・カレンダー The Badminton World Calendar」の1981年版ができました。

バドミントン・ファンの皆様のご要望をいれて、今年は大判（B3判＝本誌の4倍大）、カラー6ページ、アート紙使用としました。

収録選手は、わが国男子の第一人者・銭谷欽治。オールジャパン2連勝の米倉よし子・徳田敦子組。スピーディな速攻でオールジャパンを制した飯野佳孝・土田証雄組。日本が生んだ世界の〝女王〟湯木博恵。切れのいいスマッシュと華麗なテクニックでみごとにチャンピオンの座についた長谷川博幸。

そして、今年は特別に一人のビッグスターを加えました。

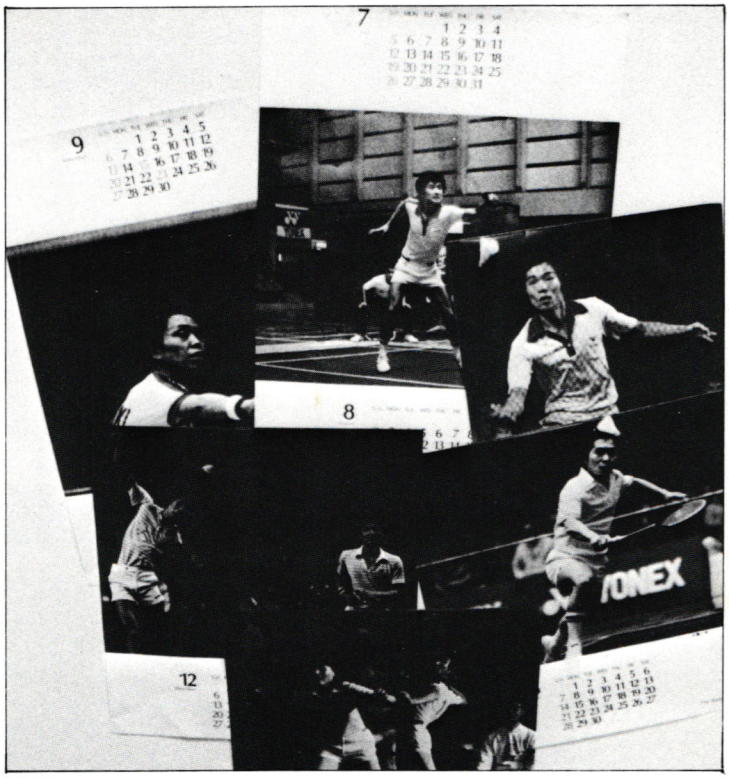
それは小さな体いっぱいに闘志をこめてオールジャパンV8の記録を達成した〝ガッツ〟小島一平です。

そのプレーぶりと人柄から、わが国はもちろん、海外でも絶大の人気者でしたが、最近は引退の噂も出ています。そこで、これからもますますがんばってその素晴しいバドミントンを見せてほしい、という願いをこめて収録しました。

迫力ある、そして華麗なカラー写真でまとめた81年版カレンダーをぜひあなたの部屋、クラブのロッカールームに、コートサイドに飾ってください。

定価は800円ですが、荷造送料は地域によって異なりますので（だいたい300円～800円程度）今年は代金後払いでお申込みを受け付けます。

本誌にとじこんだ「バドミントン・カレンダー申込み」ハガキに必要事項を明記して、お早めにお申し込みください。なお、郵送のさいは二ツ折になりますことを、あらかじめご了承ください。カレンダー発送のさいに、専用の振込用紙をお送りしますので、到着後一週間以内にお近くの郵便局からお振り込みください。



定価800円
好評発売中

◆バドミントン・カレンダー'81荷造送料◆

あて先＼冊数	1冊	4冊まで	8冊まで	12冊まで	16冊まで	17冊以上
東京23区内	300円	400円	460円	520円	580円	600円
第1地帯	300円	500円	580円	600円	600円	600円
第2地帯	300円	650円	700円	700円	700円	700円
第3地帯	300円	800円	880円	1,000円	1,000円	1,000円

★**第1地帯**＝23区を除く東京都下，神奈川，埼玉，千葉，茨城，山梨，静岡，群馬，栃木，福島，宮城，山形，新潟，長野，富山，岐阜，愛知，滋賀，石川，三重
第2地帯＝青森，岩手，秋田，福井，京都，大阪，奈良，和歌山，兵庫，鳥取，岡山，島根，広島，香川，徳島，高知，愛媛
第3地帯＝北海道，山口，福岡，大分，宮崎，熊本，鹿児島，佐賀，長崎，沖縄



DÉFI

イタリアからColor Liberation最新版の到着。

新鮮デフィ、新発売。

正統コットンホワイトのぼく。ところが、きょうのパートナーは、イタリアから新着のデフィのポロ。伝統の優れた機能性に、ファッショナブルなイタリアンフィーリングをコーディネイトしたNewデフィとは！ 鮮やかなイタリアンカラーが、ときにローマの華麗となって、ときにフィレンツェの繊細となって、コートを舞った。きみは、コートのウィナーになる前に、恋のウィナーになってしまうぞ。

kawasaki

河崎ラケット工業株式会社

今、世界のコートで活躍する一流プレーヤーの4人のうち3人までがヨネックスのラケットで勝利をその手にしています。それはヨネックスの技術の真価の証明でもあるわけです。常に最先端のラケットを作りつづけた歴史の信頼でもあります。たとえばB-8500、カーボネックスは一つの壁とされていた100gを大きく破り、その超軽量と性能のシャープさで世界を興奮させました。バドミントンの未来の先取りです。いま、熱い視線がヨネックスに注そがれています。

YONEX®

世界のコートで活躍するのは、いつもヨネックス。



'80全英バドミントンチャンピオン
プラカシュ・パデュコーン(インド)